愛媛大学埋蔵文化財調査報告　XIII

愛媛大学埋蔵文化財調査室年報

── 2003年度 ──

愛媛大学埋蔵文化財調査室

２００５

愛媛大学埋蔵文化財調査室年報

― 2003年度 ―

愛媛大学埋蔵文化財調査室

２００５

序　　文

愛媛大学は、松山市内および愛媛県内各所に大小のキャンパスをもち、敷地総面積は464ヘクタールにおよぶ。そのうち、本部事務局と４つの学部が所在する城北団地には文京遺跡、農学部と附属高等学校がある樽味団地には樽味遺跡、国際交流会館がある鷹子団地では鷹子遺跡、教職員宿舎のある北吉井団地では桑原西稲葉遺跡など、数多くの遺跡をかかえている。愛媛大学では、埋蔵文化財調査室を設置し、こうした埋蔵文化財が諸工事で影響を受ける場合、影響度に応じて、全面調査、立会調査の発掘調査、あるいはその影響度をはかるための試掘調査、大学構内における遺跡の有無や精度の高い分布状況を把握する確認調査を実施し、埋蔵文化財の保護に努めている。

こうした調査成果を客観的に資料化し、調査報告書にまとめて公開することによって遺跡の評価が行われる。ところが、規模の大きい全面調査については、調査報告書刊行には現地での発掘作業と同等の時間を、記録類や出土品の整理作業に要する。愛媛大学の場合、出土品の多さと、1994年度から続いていた頻繁な発掘調査によって、速やかな報告書刊行を容易に行えない状況にあった。こうした状況を打開するため、2000年に大規模な全面調査の報告書刊行に向けて調査室の体制を再整備し、整理作業を前進させることとする一方で、小規模調査である試掘・立会・確認調査についての報告と、本格調査の概要報告を併せた『埋蔵文化財調査室年報』を刊行してきた。本書は、その2003年度分である。

本書をまとめるにあたっては、多くの機関・部局・個人の方々から協力を得た。その労に深く感謝するとともに、本書が大学内外の多くの方々に利用・活用されることを祈念します。

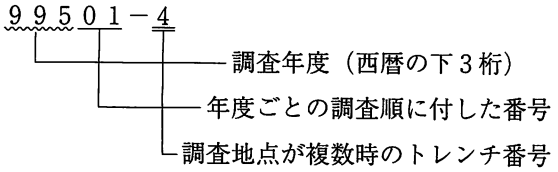
平成17年１月20日

愛媛大学埋蔵文化財調査室
室長　下　條　信　行

例　　言

1．本書は、愛媛大学埋蔵文化財調査室が2003年度に大学構内で実施した大規模な全面調査の概要と、試掘・立会・確認形式で行った小規模調査の成果を報告する愛媛大学埋蔵文化財調査室年報であり、愛媛大学埋蔵文化財調査報告XIIIにあたる。

2．埋蔵文化財調査室では、本格全面調査・構内遺跡確認調査については、遺跡ごとに調査次数を付しているが、同時に、1975年から始まった大学構内の発掘調査まで遡って、立会・試掘形式の小規模調査も含めて、すべての調査に調査番号を与えている。調査番号は、西暦の下３桁の後に各年度ごとの調査順に01からの２桁の通し番号を加えた５桁の番号で表示している。調査番号に加えて、複数の地点（トレンチ）を調査した場合、－の後に地点番号を付して表示している。



3．本書では、遺構番号に冠して、掘立柱建物：SB、竪穴式住居跡：SC、溝：SD、炉跡・竈：SF、柵列：SA、水田：SS、土壙：SK、柱穴・小穴：SP、自然流路：SR、その他の遺構：SXの記号で遺構の種別を表している。

4．本書で表示した方位・標高数値は、本格調査においては、日本測地系（Tokyo Datum）平面直角座標系第Ⅳ系にしたがっている。ただし、試掘・立会調査・確認調査で座標系が利用できなかった場合は、調査地点周囲の平板測量成果を掲載し、磁北を表示している。

5．土色・遺物の色調は、1991年以降、小山正忠・竹原秀雄編著（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）『新版標準土色帖』に準拠しているが、本文中ではマンセル記号は省略した。

6．本書に使用した遺構図は、田崎博之・吉田広・三吉秀充・宮崎直栄が作成し浄写を行った。

7．本書に使用した遺物図は、田崎が作成し浄写を行った。

8．本書で使用した写真は、田崎・吉田・三吉が撮影した。

9．本書は田崎・吉田・三吉が執筆し、下條信行の指導のもとに、田崎が編集を行った。

10．本書に報告した調査に係わる記録類・出土遺物は、愛媛大学埋蔵文化財調査室において保管している。

本文目次

Ⅰ　埋蔵文化財委員会と埋蔵文化財調査室の事業 …… 1
1　埋蔵文化財調査委員会 …… 1
2　発掘調査と整理作業 …… 2
3　発掘報告書・年報の刊行 …… 2
4　広報、出土品・調査記録の活用 …… 5

Ⅱ　2003年度実施の発掘調査 …… 10
00301　（城北団地）総合研究実験棟新営工事に伴う全面調査（文京遺跡27次調査）…… 10
00302　（城北団地）総合研究実験棟新営工事樹木移植に伴う立会調査 …… 19
00303　（城北団地）放送大学愛媛学習センターサイン取設工事に伴う立会調査 …… 21
00304　（城北団地）理学部総合研究棟改修工事に伴う全面調査（文京遺跡28次調査）…… 24
00305　（城北団地）安全衛生管理対策（実験盤等改修）工事に伴う立会調査 …… 33
00306　（城北団地）安全衛生管理対策（廃液保管庫他改修）電気設備工事に伴う立会調査 …… 39
00307　（城北団地）安全衛生管理対策（実験盤等改修）工事に伴う立会調査 …… 41

挿図目次

図１　2003年度調査地点位置図
（城北団地、縮尺 1/3,500）…… 4
図２　00301（文京遺跡27次）調査西壁土層断面図
（縮尺 1/100）…… 11
図３　00301（文京遺跡27次）調査遺構配置図１
（縮尺 1/200）…… 12
図４　00301（文京遺跡27次）調査遺構配置図２
（縮尺 1/200）…… 13
図５　00301（文京遺跡27次）調査黄褐色シルト質土
下面（縮尺 1/200）…… 16
図６　00302調査１トレンチ出土遺物実測図
（縮尺 1/3）…… 19
図７　00301・00302調査地点位置図・00302調査土層
柱状図（縮尺 1/1,000・1/40）…… 20
図８　00302調査地点位置図・土層断面図
（縮尺 1/600・1/40）…… 22
図９　00304（文京遺跡28次）調査周辺の既往調査
（縮尺 1/1,000・1/50）…… 25
図10　00304（文京遺跡28次）調査３～６トレンチ
土層断面図（縮尺 1/50）…… 26
図11　00304（文京遺跡28次）調査８トレンチ実測図
（縮尺 1/50）…… 26
図12　00304（文京遺跡28次）調査９トレンチ実測図
（縮尺 1/50）…… 29
図13　00304（文京遺跡28次）調査９トレンチ
出土遺物実測図（縮尺 1/3）…… 32
図14　00305調査１～６トレンチ位置図・土層断面図
（縮尺 1/1,000・1/40）…… 34
図15　00305調査７・８トレンチ位置図・土層断面図
（縮尺 1/1,000・1/40）…… 37
図16　00306調査１・２トレンチ土層断面図
（縮尺 1/50）…… 39
図17　00306調査出土遺物実測図（縮尺 1/4）…… 40
図18　00307調査位置図・東壁土層断面図
（縮尺 1/1,000・1/50）…… 42
図19　樽味団地調査地点位置図（縮尺 1/2,000）…… 48
図20　城北団地調査地点位置図
（縮尺 1/2,000）…… 巻末 折り込み

写真目次

写真１　00301（文京遺跡27次）調査現地説明会 … 6
写真２　体験発掘 …… 7
写真３　00301（文京遺跡27次）調査１ ……14
写真４　00301（文京遺跡27次）調査２ ……15
写真５　00301（文京遺跡27次）調査３ ……17
写真６　00302調査１・３トレンチ ……21
写真７　00303調査１・２トレンチ ……23
写真８　00304（文京遺跡28次）調査
　　１～３トレンチ ……27
写真９　00304（文京遺跡28次）調査
　　４～７トレンチ ……28
写真10　00304（文京遺跡28次）調査
　　８・９トレンチ ……30
写真11　00304（文京遺跡28次）調査
　　９トレンチ ……31
写真12　00304（文京遺跡28次）調査
　　９トレンチ出土遺物 ……32
写真13　00305調査１～４トレンチ ……35
写真14　00305調査５～７トレンチ ……36
写真15　00305調査８トレンチ ……38
写真16　00306調査１・２トレンチ ……40
写真17　00306調査２トレンチ出土絵画土器 ……40
写真18　00307調査状況 ……41

表目次

表１　埋蔵文化財調査委員会と埋蔵文化財調査室の
　　体制 …… 1
表２　埋蔵文化財調査の問い合わせ・依頼一覧 … 3
表３　2003年度発掘調査一覧 …… 5
表４　出土品・調査記録の活用状況 …… 8
表５　00301（文京遺跡27次）調査
　　出土遺構一覧 ……10
表６　愛媛大学埋蔵文化財調査一覧 ……43～47

Ⅰ　埋蔵文化財委員会と埋蔵文化財調査室の事業

1　埋蔵文化財調査委員会

愛媛大学では、1987年に愛媛大学埋蔵文化財調査委員会が設けられ、施設整備に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関する重要事項を調査審議している。その指導のもとに設置された埋蔵文化財調査室では、諸工事の埋蔵文化財への影響の度合いに応じて、その保護に努めている。2003年度の埋蔵文化財調査委員会および埋蔵文化財調査室の体制は、表１の通りである。

埋蔵文化財調査室の運営に関わる事項等が審議される埋蔵文化財調査委員会は、2003年７月９日に開催された。2002年度事業報告、2003年度事業計画、その他の議題が報告され審議された。

2002年度事業報告では、発掘調査、整理作業、発掘調査報告書等の刊行と発送、広報・資料の利活用状況の実施事業、会計が報告された。これについて、人件費・人材が充足・確保されているかの質問があり、人件費は現状では問題ないこと、人材についても整理作業経験者や考古学専攻生を確保し、作業の円滑化を図っていることが説明された。以上の審議が行われ、2002年度の実施事業・会計報告は承認された。

2003年度の発掘調査、整理作業、発掘調査報告書等の刊行、発送、広報・資料の利活用の事業計画と予算について説明され了承された。

その他の議題では、出土遺物および発掘器材の収納場所の問題と、埋蔵文化財調査室の長期的課題が報告された。出土遺物および発掘器材の収納場所については、収納場所が不足し、施設を確保する必要があることが説明された。こうした保管施設については、2002年度に用地が既に確保されており、全学的な協力で建設予算を確保していくことが了承された。埋蔵文化財調査室の長期的課題については、今後とも施設整備等に伴う発掘調査を継続すること、既往調査の正式発掘報告書を刊行すること、さらに文京遺跡の価値評価と利活用、市民への公開、文京遺跡を文化財資源とする地域貢献の新たな研究分野の創出を進めるために、埋蔵文化財調査室要項の見直しが提案された。これについて審議されたが、再度整理して検討することとされ

表１　埋蔵文化財調査委員会と埋蔵文化財調査室の体制

埋蔵文化財調査委員会				埋蔵文化財調査室		
部　局	委　員		備　考	調査室長	下條　信行	法文学部教授
	副 学 長	小林　展章	埋蔵文化財調査委員会委員長	調 査 員	田崎　博之	法文学部教授
法文学部	法文学部長	今泉　元司			吉田　　広	法文学部助教授
法文学部	教　　授	下條　信行	埋蔵文化財調査室長		三吉　秀充	法文学部助手
法文学部	教　　授	松原　弘宣		教務補佐員	宮崎　直栄	施設部企画課
教育学部	教育学部長	金藤　泰伸		事務補佐員	横本　順子	
教育学部	教　　授	川岡　　勉		技術補佐員	武田　尊子	
理 学 部	理学部長	柳澤　康信			山田　誠司	
医 学 部	医学部長	小西　正光			井出野文江	
工 学 部	工学部長	鈴木　幸一			門田　　都	
農 学 部	農学部長	白石　雅也			松本美和子	
事 務 局	事務局長	田村　幸男			丸岡美智子	
事 務 局	総務部長	大和田和平		専 門 員	松原　弘宣	法文学部教授
事 務 局	経理部長	白石　薫二			村上　恭通	法文学部助教授
事 務 局	施設部長	土居　昌弘			川岡　　勉	教育学部教授

た。

そこで、埋蔵文化財調査室は、長期的課題を再整理し、9月12日、小林埋蔵文化財調査委員長に、埋蔵文化財調査室の位置付けの明確化、調査室の事業として埋蔵文化財の公開・発信の方法を検討し地域貢献活動を進めること、全学体制での専門員の充実、実態に即して「研究」業務を追加するなどの埋蔵文化財調査室要項の見直し案を提出した。これに対して、年度末までに、他大学を参考にしながら、調査室の位置付けを明確化すること、埋蔵文化財調査室要項に「調査研究」業務を追加すること、学内で自然系の教員の協力を受けて専門員体制を充実させていくことの検討を進めていくものとされた。また、埋蔵文化財の公開に向けて実現に善処していくことが確認された。

なお、2004年度からの独立法人化に伴って全学各種委員会の廃止・継続が検討されているが、埋蔵文化財調査委員会については、法人化後も当分の間、運用するものとされている。（田崎）

2　発掘調査と整理作業

埋蔵文化財調査室では、毎年度当初、掘削を伴う工事計画について、施設部を通じて各部局に問い合わせを行い、埋蔵文化財への影響を判断し協議を求めていくこととしている。こうした手続きが定着している結果として、2003年には、21件（工学部１、教育学部３、法文学部２、施設部13、学務部１、経理部１）の問い合わせと調査依頼があった（表２）。この中で、周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断されたものについては、発掘調査が必要ないことを回答するとともに、慎重工事を依頼している。

その一方で、昨年度も含めて数例、埋蔵文化財への影響を考慮せず工事が行われたことが明らかになり、埋蔵文化財調査室長と施設部長名で関係部局に埋蔵文化財の周知徹底を図ることを申し入れた。

（１）発掘調査

2003年には、前述の21件の問い合わせと調査依頼の中で、工事によって埋蔵文化財に影響が及ぶと判断した７件の発掘調査を実施した（表３、図１）。内訳は、建物建設や大規模改修工事に伴う全面調査２件、営繕工事や小規模な改修工事に伴う立会調査５件である。いずれも城北団地での調査であり、他の団地では2003年度には調査が行われていない。

（２）整理作業

今年度の発掘調査報告書の刊行に向けた整理作業として、城北団地理学部構内の総合研究棟新営Ⅰ期工事に伴う文京遺跡21次調査、同Ⅱ期工事に伴う文京遺跡24次調査の出土遺物の洗浄・注記・接合・復元作業、および微細遺物の選別作業を行った。

また、城北団地工学部構内の地域共同研究センター新営工事に伴う文京遺跡13次調査（昨年度から継続）、サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー新営工事に伴う文京遺跡20次調査（来年度まで継続）、㈱四国電力による城北団地構内高圧線敷設工事に伴う文京遺跡23次調査で出土した遺物について、発掘調査報告書の刊行に向けての準備として実測・製図作業を進めた。（田崎）

3　発掘報告書・年報の刊行

2003年度には、1995年度に城北団地で実施された地域共同研究センター新営工事に伴う文京遺跡13次調査の正式調査報告書である『文京遺跡Ⅲ－文京遺跡13次調査の記録－』、2001・2002年度に実施した全面調査の概要報告と小規模調査の報告をとりまとめた『埋蔵文化財調査室年報－2001・2002年度－』を印刷・刊行した。

また、昨年度刊行した『樽味遺跡Ⅳ』、『埋蔵文化財調査室年報－1999・2000年度－』を、全国の大学・研究機関、文化庁、教育委員会・埋蔵文化財センター、博物館・資料館へ発送した。（田崎）

表２　埋蔵文化財調査の問い合わせ・依頼一覧

年	月日	発	工事名	回答・対応	備考
2003年	4月23日	無細胞生命化学工学研究センター長	（城北）総合実験棟新営工事	既往の調査成果から工事範囲全面に縄文時代～中世の遺構が営まれていると判断。	文京遺跡27次調査（調査番号：00301）として発掘調査を実施。
	5月21日	施設部施設課長	（城北）総合実験棟新営工事に伴う樹木移植工事	周辺の既往調査の成果から、３地点中２地点は掘削深度が浅いので埋蔵文化財に影響なしと判断。他の１地点については、掘削深度が深いため影響があると判断。	１地点のみ立会調査（調査番号：00302）。他は発掘調査せず、慎重工事を依頼。
	6月13日	教育学部長	教育学部附属小学校の遊具撤去および設置工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断。	発掘調査せず、慎重工事を依頼。
	7月22日	施設部施設課長	（城北）情報教育棟・放送大学愛媛学習センター新営電気設備工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断。	発掘調査せず、慎重工事を依頼。
	9月10日	法文学部長	法文学部両面ポール時計取設工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断。	発掘調査せず、慎重工事を依頼。
	9月22日	教育学部長	教育学部附属中学校プール用井水給水設備取設工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断。	発掘調査せず、慎重工事を依頼。
	11月17日	施設部施設課長	埋蔵文化財調査室倉庫取設工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断。	発掘調査せず、慎重工事を依頼。
	11月17日	施設部施設課長	（城北他）安全衛生管理対策（建具等改修）工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断。	発掘調査せず、慎重工事を依頼。
	11月17日	法文学部長	法文学部本館３階実験室流し台設置に伴う給排水工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断。	発掘調査せず、慎重工事を依頼。
2004年	1月４日	施設部施設課長	（城北他）安全衛生管理対策（実験盤等改修）工事	工事地点の８ヶ所では、既往の調査成果から、掘削工事によって埋蔵文化財工事に影響がおよぶものと判断。	立会調査（調査番号：00305）を実施。
	1月14日	施設部施設課長	（城北他）安全衛生管理対策（実験盤等改修）工事	既往の調査成果から、工事地点の一部は掘削工事によって埋蔵文化財に影響がおよぶ可能性があると判断。	立会調査（調査番号：00307）を実施。
	1月19日	施設部施設課長	（城北）総合研究実験棟新営電気設備工事	埋蔵文化財に影響が及ばない掘削深度に工事計画を変更するように依頼。計画変更が行われ、埋蔵文化財に影響がないものと判断。	発掘調査せず、慎重工事を依頼。
	2月２日	学務部長	東屋の設置工事（理学部・農学部）	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断。	発掘調査せず、慎重工事を依頼。
	2月３日	教育学部長	教育学部附属養護学校散水用井水給水設備取設工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断。	発掘調査せず、慎重工事を依頼。
	2月20日	施設部施設課長	（城北）安全衛生管理対策（廃液保管庫等改修）工事	既往の調査成果から、掘削工事によって埋蔵文化財工事に影響がおよぶものと判断。	立会調査（調査番号：00306）を実施。
	2月23日	施設部施設課長	（城北他）安全衛生管理対策（局所排気等改修）工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断。	発掘調査せず、慎重工事を依頼。
	2月23日	施設部施設課長	理学部構内における物置設置工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断。	発掘調査せず、慎重工事を依頼。
	3月15日	施設部企画課総務係長	屋外掲示板設置工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断。	発掘調査せず、慎重工事を依頼。
	3月17日	経理部主計課長	城北キャンパス正門記念樹植栽工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断。	発掘調査せず、慎重工事を依頼。
	3月17日	施設部施設課長	教育学部本館講義室他空調設備工事	周辺の既往調査の成果から、計画掘削深度では埋蔵文化財に影響がないと判断。	発掘調査せず、慎重工事を依頼。
	3月19日	施設部施設課長	（城北他）安全衛生管理対策（実験盤等改修）工事	工事範囲は工学部４号館建物建設に伴う余掘り部分にあたり、埋蔵文化財はすでに破壊されていると判断。	発掘調査せず、慎重工事を依頼。

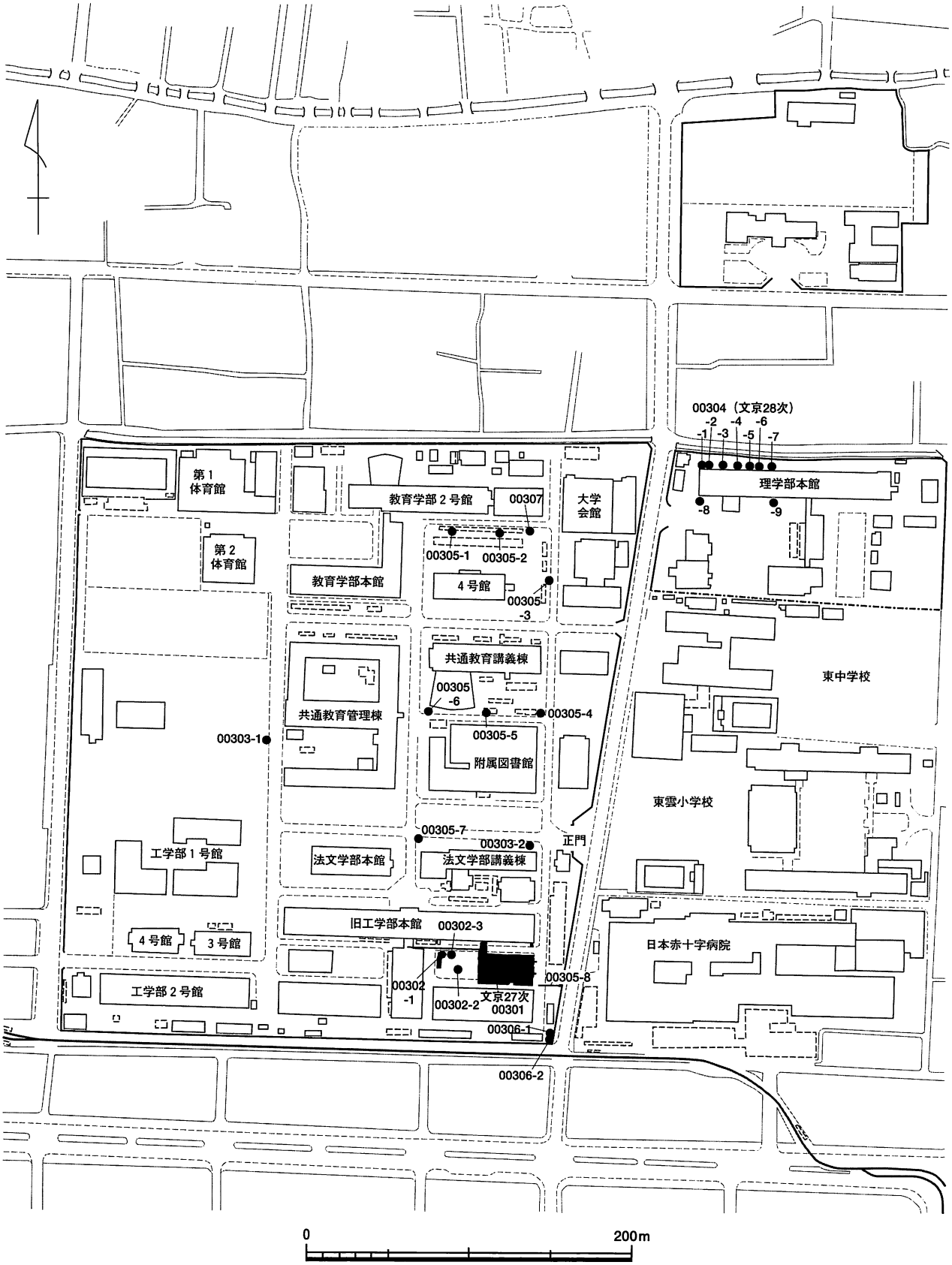


図1　2003年度調査地点位置図（城北団地、縮尺 1/3,500）

表３　2003年度発掘調査一覧

調査番号	調査種別	団　地	遺跡・次数	調　査　原　因	調査期間	調査面積	調査担当
00301	全面調査	城北団地	文京遺跡27次	総合研究実験棟新営工事	2003.05.29～10.24	703㎡	吉田・三吉
00302	立会調査	城北団地	文京遺跡	総合研究実験棟新営工事に伴う樹木移植工事	2003.05.27	39㎡	吉田
00303		城北団地	文京遺跡	放送大学愛媛学習センターサイン取設工事	2003.09.05	3㎡	田崎
00304	全面調査	城北団地	文京遺跡28次	理学部総合研究棟改修工事	2003.12.01～12.16	49㎡	田崎
00305	立会調査	城北団地	文京遺跡	安全衛生管理対策（実験盤等改修）工事	2004.02.09	12㎡	田崎・三吉
00306		城北団地	文京遺跡	安全衛生管理対策（廃液保管庫他改修）電気設備工事	2004.03.04	1.5㎡	田崎・三吉
00307		城北団地	文京遺跡	安全衛生管理対策（実験盤等改修）工事	2004.03.04	3㎡	田崎・三吉

4　広報、出土品・調査記録の活用

大学構内の埋蔵文化財調査が進むとともに、調査成果に対する学内外からの関心が高まりをみせている。埋蔵文化財調査室では、これに応えるべく、調査成果や埋蔵文化財調査室に関する広報活動を積極的に進めている。４月の新入生への広報パンフレット『発掘愛媛大学』の配布であったり、本格調査の際の現地説明会開催などである。さらに、今年度には、2001年度につづいて、大学周辺の小学校児童を対象とする体験発掘を開催した。また、年度末になったが埋蔵文化財調査室ホームページを開設できた。

一方、学内外から出土資料に関する調査や借用の依頼が多く寄せられるようにもなっている。教材資料としての利用・借用依頼、学生・研究者の研究資料としての調査依頼、博物館等からの出展依頼等である。それぞれの要望に調整を図りながら、個別に対応している。（田崎）

（１）現地説明会の開催

2003年度に実施した総合研究実験棟新営工事に伴う文京遺跡27次調査では、縄文時代～近世の竪穴式住居跡・土壙・溝・土器溜りなど多くの遺構・遺物が出土した。調査最終段階の９月６日に、調査成果を現地で公開する現地説明会を開催し、学内外から80名をこえる参加者を得ることができた（写真１）。（田崎）

（２）体験発掘の実施

2001年度に開催した小学校児童を対象とした文京遺跡体験発掘（松山市立東雲小学校・湯築小学校の６年生児童151名が参加）では、多くの児童から再度体験発掘に参加したいとの要望が多数寄せられた。これを受けて、埋蔵文化財調査室で体験発掘開催を検討したが、実施可能な発掘調査の機会に恵まれず、開催できない状態にあった。

2003年５月、城北団地で総合研究実験棟新営工事に伴う文京遺跡27次調査が開始され、調査面積・期間などを検討し、第２回文京遺跡体験発掘を企画することとなった。

今回の体験発掘では、「地元の遺跡を知ってもらう」ことに主眼をおき、愛媛大学周辺の松山市立東雲小学校・清水小学校・湯築小学校、愛媛大学附属小学校の４校に連絡をとった。調査の進行状況・学校行事との調整を行い、夏休み中の開催とし、７月２日、歴史学習が始まる６年生の児童を対象に開催案内を送付し、参加者を募集した。募集にあたり、可能な限り保護者・各小学校教員の参加をお願いした。また、体験発掘の運営に協力してもらう学生ボランティアを学生用掲示板を通じて募集した。

当初、30～40名程度の参加者を想定して体験発掘を計画していたが、参加希望者は、予想を大幅に上回る児童72名、保護者15名、教諭６名、学生ボランティア14名の計107名になった。そこで、体験発掘の内容を、文京遺跡解説、発掘体験、出土品の展示、埋蔵文化財調査室の見学を同時進行で行うスケジュールを組み立てた。

1：出土遺構の説明

2：出土遺物の説明

写真１　00301（文京遺跡27次）調査現地説明会

７月29日、愛媛大学職員会館で、埋蔵文化財調査室調査員と各小学校教員で事前検討会を行った。体験発掘のねらい、当日のスケジュールや内容についての説明の後、時間配分、体験内容などについて小学校教員、調査室調査員の双方の視点から検討を行った。８月４日には、学生ボランティアと打ち合わせる説明会を開き、当日のシミュレーションを行った（写真２-１）。

体験発掘当日である８月６日は、全体説明の後、参加者全員が４班に分かれて、文京遺跡解説、発掘体験、出土品展示の見学、埋蔵文化財調査室の見学を順次進めていった（写真２-２～６）。各班には、学生ボランティアが同伴し、体験会場への誘導や補助を行った。

文京遺跡解説では、法文学部本館西側に設置した文京遺跡展示プレートを利用しながら、文京遺跡についての理解を深めてもらったが、参加者からは現地で文京遺跡を感じられる施設を増やして欲しいとの声が聞かれた。

発掘体験では、参加児童１名に経験豊富な発掘作業員が１名つきそい、発掘作業員の指導を受けながら、実際に発掘調査を体験してもらった。参加者からは、「もっと発掘の時間を増やして欲しい」、「土器や石器が１点も掘り出せなかったのが残念」といった感想が寄せられた。また、午前中から30℃を超す真夏日となったため、発掘体験会場では、寒冷紗で日陰を設けるなどの対応を行ったものの、参加者および学生ボランティアから「暑かった」という感想が多数聞かれた。暑さ対策、発掘時間の工夫は今後の課題である。

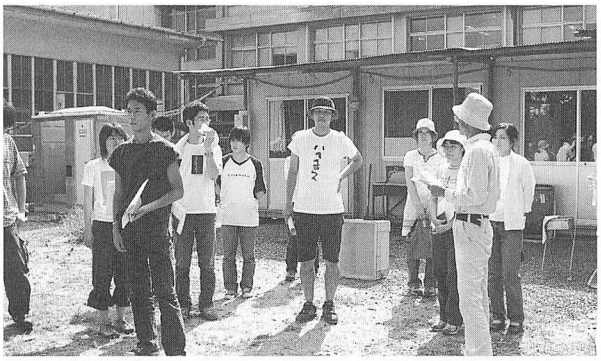
出土品の展示では、職員会館の一室に、文京遺跡出土の弥生土器を展示し、絵を描きながら出土品の特徴を把握してもらうこととした。単に土器を眺めるだけでなく、スケッチすることで土器の形や模様を詳しく観察し、弥生土器がより印象深いものになったようである。

埋蔵文化財調査室の見学では、文京遺跡出土の銅鏡や鉄器などの貴重品の展示見学、土器接合や微細遺物の選別作業を実際に体験してもらった。細かい作業の連続であるが、土器の破片が他の破片とくっついたり、微細遺物の中からガラス小玉や炭化米が見つかった時の喜びを経験してもらうことができた。

参加者全員にアンケートを実施した。児童のアンケートでは、９割以上が次回も参加したいとの回答であった。保護者からは、毎年、体験発掘を開催して欲しいとの意見が多数寄せられている。体験発掘などの地元市民を対象とした活動が強く望まれている。これらアンケートの集計結果を整理し、11月25日、愛媛大学職員会館にて埋蔵文化財調査室員と体験発掘に参加した小学校教員で、事後検討会を行い、体験発掘当日の感想や小学校における埋蔵文化財資料の利活用について検討した。

小学校教員側からは、体験発掘が児童たちに好評で、とくに土器が土の中から出てきた感動や、ガラス越しではなく土器や石器に直接触れられたことが良かったとの感想が報告された。一方、改善点として、授業としての開催や開催時期の変更などの要望が出された。発掘調査の実施時期が不定期であるという問題点があり、今後も小学校側と緊密に連絡調整を行っていく必要があろう。

また、小学校教員から体験発掘で埋蔵文化財調査室を訪問して初めて弥生土器や石鏃といった教材になり得る資料が保管されていることを知ったということが

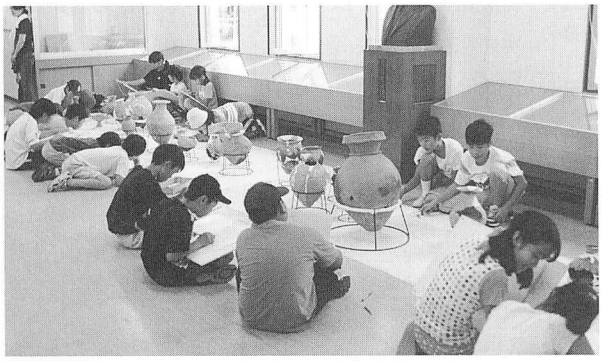


1：学生ボランティアへの事前説明会

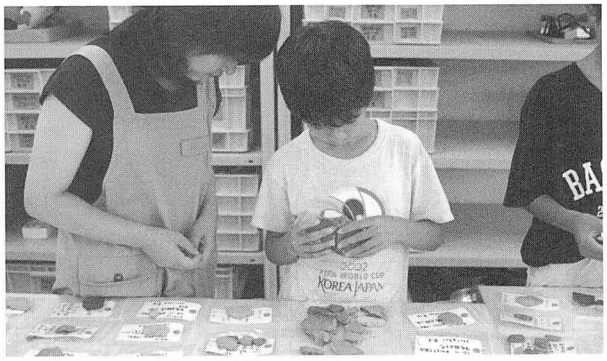
2：体験発掘当日全体説明

3：文京遺跡の解説

4：発掘体験



5：土器の展示見学とスケッチ



6：調査室での整理作業体験

7：事後検討会

8：体験発掘の思い出集と体験発掘の記録集

写真２　体験発掘

表４　出土品・調査記録の活用状況

年月日		利　用　者	目　　的	利　用　資　料	利用内容
2003年	４月１日	法文学部・教員	研究のための資料調査	文京遺跡10次調査出土遺物	借用
	４月１日	法文学部・教員	教材利用のため	文京遺跡10次調査SK-４・11出土土器	借用
	４月３日	松山市在住市民	施設・出土品の見学	調査室収蔵資料	熟覧
	４月11日	教育学部・教員	教材利用のため	文京遺跡14・17次調査、桑原西稲葉遺跡出土土器・石器　計15点	借用
	４月22日	法文学部・教員	教材利用のため	文京遺跡出土分銅形土製品　計４点	借用
	５月６日	法文学部・教員	教材利用のため	文京遺跡調査35㎜スライド	借用
	５月７日	法文学部・教員	研究のための資料調査	所蔵図書	借用
	５月15日	法文学部・大学院生	修士論文作成のための資料調査	文京遺跡13次調査出土土器	実測
	５月16日	高知大学人文学部・教員	研究のための資料調査	文京遺跡出土遺物	熟覧
	５月18日	徳島県埋蔵文化財調査センター・調査研究員	研究のための資料調査	文京遺跡24次調査出土土器	熟覧
	５月20日	法文学部・教員	修士論文作成のための資料調査	文京遺跡８・11次調査出土石器	実測
	６月11日	松山市在住市民	個人研究のための資料調査	所蔵図書	借用
	７月13日	愛媛県埋蔵文化財調査センター・調査研究員	展示会開催に伴う資料調査	松山市遺跡台帳カード(複写控え分)	借用
	７月17日	松山工業高等学校・教諭	教材利用のため	施設・出土品の見学	見学
	８月10日	九州大学文学部･大学院生(４名)	研究のための資料調査	文京遺跡出土銅鏡・鉄器・石器	熟覧
	８月11日	道後中学校・児童（４名）	理科の自由研究のための資料調査	文京遺跡27次調査の現地と出土品の見学	見学
	８月21日	東京都新宿区歴史博物館・学芸員	研究のための資料調査	文京遺跡出土銅鏡・鉄器・石器	熟覧
	８月27日	奈良大学文学部・教員	研究のための資料調査	文京遺跡出土銅鏡・鉄器・石器	熟覧
	９月24日	宮崎県日之影町教育委員会・埋蔵文化財担当者	遺跡見学	文京遺跡見学	見学
	９月26日	大分県立歴史博物館	展示会での出土品展示のため	文京遺跡出土土器	借用
	９月26日	法文学部・学部生	卒業論文作成のための資料調査	文京遺跡10・12・13・23次出土土器	実測・写真撮影
	９月30日	宮崎県埋蔵文化財センター・調査研究員	遺跡出土炭化種子同定の研修のため	文京遺跡12次調査出土炭化米	借用
	10月10日	愛知県埋蔵文化財センター・調査研究員	報告書作成にかかわる関連資料調査	文京遺跡出土遺物	熟覧
	10月18日	徳島県埋蔵文化財調査センター・調査研究員	研究のための資料調査	文京遺跡出土縄文土器	熟覧
	11月20日	法文学部・教員	ネット授業教材利用のため	文京遺跡出土土器　１点	借用
	11月21日	東雲小学校・教諭＋児童	総合学習のため	総合学習での問い合わせと施設・資料見学	写真撮影
	11月20日	法文学部・教員	教材利用のため	文京遺跡出土銅鏡　２点	借用
	12月１日	法文学部・教員	教材利用のため	文京遺跡24次調査出土土器	借用
	12月22日	宮崎大学教育文化学部・教員	研究のための資料調査	文京遺跡見学	見学
2004年	１月16日	(財)大阪文化財協会・課長	関連施設調査のため	施設見学	見学
	１月29日	法文学部・大学院生	修士論文作成のための資料調査	文京遺跡13次調査出土土器	熟覧・写真撮影
	２月12日	宇和島市在住市民	研究のための資料調査	文京遺跡25・27次調査出土縄文土器	熟覧
	２月16日	九州大学施設部・施設部長	関連施設調査のため	施設見学および遺跡保存状況	見学
	２月18日	徳島県埋蔵文化財調査センター・調査研究員	大学構内遺跡調査動向の調査	関連資料の提供依頼	資料提供
	２月19日	愛媛県埋蔵文化財調査センター・調査研究員	展示会開催のための資料調査	文京遺跡出土の中世の遺物の情報収集	資料提供と関連文献の複写
	２月23日	香川県埋蔵文化財調査センター・調査研究員	研究のための資料調査	文京遺跡出土弥生土器	熟覧
	２月28日	東予市教育委員会・埋蔵文化財担当者	報告書作成にかかわる関連資料調査	文京遺跡20次調査出土石器	熟覧
	２月28日	東予市教育委員会・埋蔵文化財担当者	報告書作成にかかわる関連資料調査	所蔵調査報告書	借用
	３月５日	工学部・教員	測量実習のため	構内設置３級基準点データ	データ利用
	３月５日	(財)古代学協会･古代学研究所･助手	研究のための資料調査	文京遺跡出土石器	実測・写真撮影
	３月18日	日本語語源研究所・所長	研究のための資料調査	文京遺跡概要と出土分銅形土製品	概要説明と熟覧・写真撮影
	３月20日	福岡市在住市民	研究のための資料調査	文京遺跡概要と出土銅鏡	概要説明と熟覧

報告された。埋蔵文化財調査室に保管されている資料の利活用は、常時実施可能であり、小学校の現状を踏まえて、社会科や理科、総合学習の授業での利用、図工での土器焼きなど様々な提案がなされた。さらに、地域学習の素材として、地元の遺跡や出土資料を利用するには、どのような資料があるのか、具体的に知りたいといった要望も出された。

以上のような提案・要望を受け、学術的な発掘調査の報告にとどまるのではなく、教育現場を始めとする多方面における保管資料の周知化、さらに具体的な活用案の作成と実施が課題として明確となってきたと思う。今後、調査室の調査・研究活動や保管資料の利活用を通じて、地域へ還元できるよう取り組んでいくことが必要である。

なお、体験発掘参加者からの質問、感想、アンケート結果や検討会の記録をまとめた『第２回文京遺跡体験発掘の記録』を刊行し、参加者並びに関係者に配布した（写真２-８）。　（三吉）

（３）埋蔵文化財調査室ホームページの開設

インターネット上における埋蔵文化財調査室の調査・研究活動の情報発信を目的として、平成16年３月ホームページを開設した。調査室の概要や専門的な報告だけでなく、城北キャンパスや樽味キャンパスの地下に眠る文京遺跡や樽味遺跡など、松山平野を代表する遺跡紹介を行うなど、市民に気軽に閲覧できるよう配慮している。

現在ホームページで公開している内容は、調査室の調整・研究活動の成果のごく一部であり、今後も随時更新を行っていく予定である。ホームページアドレスは、http://www.ehime-u.ac.jp/%7Emaibun/index.html である。　（三吉）

（４）出土品・調査記録の活用状況

2003年度には、学内外から42件の出土品・調査記録の利用を依頼され、適宜対応した（表４）。その内訳をみると、学内からは、本学教員の実物教育の教材としての利用等が11件、大学院生・学部生の修士論文・卒業論文作成のための資料調査が３件ある。学外からは、大分県立歴史博物館からの出土品の借用をはじめ、他大学の教員・学生や埋蔵文化財調査機関の調査研究員や担当者の資料調査依頼が多い。それに加えて、市民から情報提供の依頼や、周辺の小学校児童の総合学習における埋蔵文化財データや情報の利用が、昨年度からとくに目立ってきた。それだけ愛媛大学に蓄積されている文京遺跡をはじめとする埋蔵文化財への一般市民の関心の高まりがうかがえる。　（田崎）

Ⅱ　2003年度実施の発掘調査

00301　(城北団地)総合研究実験棟新営工事に伴う全面調査
(文京遺跡27次調査)

調査地点　松山市文京町３番
　　愛媛大学城北団地構内
調査面積　703㎡
調査期間　2003年６月９日～10月24日
調査の種別　本格調査
調査担当　吉田広・三吉秀充
依頼文書　無細胞生命工学研究センター長発
　　事務連絡　(平成15年４月23日付)

1　調査にいたる経緯

総合研究棟２(旧工学部本館)の東部南側、工学部２学科実習棟北側に、総合研究実験棟の新営が計画された。周辺での既往調査から、計画建物範囲内に遺跡が存在することは確実であり、新営工事に先だって全面調査を実施することとなった(図１・７)。

2　調査の概要

調査面積は703㎡である。５月29日に範囲内の移植樹木抜根に際して立会調査(調査番号：00302)を行い、６月９日から本格的に調査に着手した。建物本体調査区と北東電灯区の調査を10月10日に終え、西管路区と北西電灯区を終了したのが10月24日である。

調査では、城北団地基本層序のⅠ・Ⅱ層を重機で取り除き、以下を手作業で掘り下げた。城北団地基本層序のⅢ層が安定して広がる範囲は調査区西側のごく一部で、南側は城北団地基本層序Ⅳ層の黄褐色シルト質土、北側はその下の砂・砂礫層が直接現れ、遺構検出面となる。現地表下30～40cmと浅く、標高は29.00m前後である。黄褐色シルト質土は、50cm程度の厚さで堆積し、縄文時代中期以降の土器・石器を包含する。発掘区西壁際での確認によれば、黄褐色シルト質土以下には、1.5～2.0mを超える砂・砂礫層が互層状に堆積し、その下で城北団地基本層序のⅤ層とした礫層が現れる。２ヶ所で確認した標高は25.60m、26.80mとかなりの差があり、上部の砂・砂礫層の堆積と一連の、水流による起伏の大きい堆積と判断される(図２)。砂・砂礫層以下で、遺物は出土していない。

このような地点に営まれた遺構としては、Ⅲ層上で

表５　00301(文京遺跡27次)調査出土遺構一覧

調査区割	遺　構	遺構番号	基数	備　考
建物本体調査区	竪穴式住居	SC-９・19～21・23・26	6	
	掘立柱建物	SB-33(SP-212・213・223・○)	1	
	土壙	SK-10～13・15～18・22・24・25・27・30～32	15	SK-27・31・32はSC-９内の土壙
	溝	SD-１・３・４・７・14・28・29	7	SD-７は北東電灯区に続く。SD-28・29はSC-９内の溝
	その他の遺構	SX-２・５・６・８・34～38	9	SX-34～38はⅣ層内遺物集中地点
	柱穴・小穴	SP-101～246	146	
北東電灯区	柱穴・小穴	SP-247～249	3	
西管路区	土壙	SK-41・43・45・46・47・48	6	
	溝	SD-39・40・44	2	39・40は一体
	その他の遺構	SX-42・49	2	49はⅣ層内遺物集中地点
	柱穴・小穴	SP-250～285・289・290	38	
北西電灯区	柱穴・小穴	SP-286～288	3	

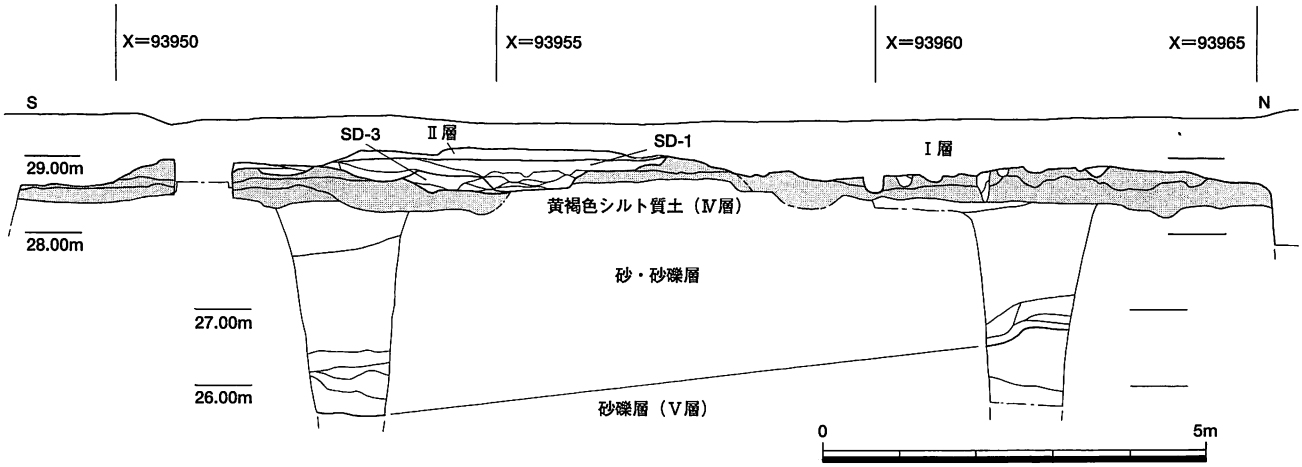


図２　00301（文京遺跡27次）調査西壁土層断面図（縮尺 1/100）

検出される中世・近世の遺構、黄褐色シルト質土あるいは砂・砂礫層を切り込む弥生時代の遺構、そして黄褐色シルト質土内で検出された縄文時代の遺構がある（表５）。

（１）近世の遺構・遺物

近世の遺構には、水路と見られるSD-１と、それに伴うSX-２、川原石を大量に含む埋土のSX-６・８がある（写真３-１）。

SD-１　SD-３西半上部に、瓦をはじめとした多量の遺物を含む砂層が広がる。水路が洪水で埋没した堆積層と考えてSD-１とした。出土遺物から18世紀以降の溝と考えられる。

SX-２　SD-１の東端部で砂層の北側への広がりと深みの形成を確認し、水口等の可能性を考えSX-２とした。出土遺物から18世紀以降の遺構と判断した。

SX-６　Ⅱ層除去後、調査区の中央南部の南壁近くで検出した。南北残存長約4.5m、東西約3.5mの隅丸方形状を呈し、南側は調査区外へ続く。深さは最大で約40cmを測る。東西の壁は強く傾斜するが、北側は緩傾斜である。底面は小さな凹凸が多数見られる。埋土中には径５cm程の川原石が大量に混じる。埋土は下層ほど砂性が強く、最下層の一部には灰黄色砂質土層が見られる（写真３-３）。遺物は、弥生から近世におよぶ土器・陶器の小破片が出土している。柱穴などの掘り込みは認められず、SD-１に近似する時期のゴミ穴と考えられる。

SX-８　SX-６の西で検出した。南側は攪乱を受け、SX-６に東端部を切られる。南北残存長４m、最南部で最大幅３mを測る。北側に向かった二等辺三角形状を呈する。東壁は明確な掘り込みを残すが、北及び西は明確な掘り形が残らない。深さは最大で約20cmを測る。底面は小さな凹凸が多数見られ、中央部がやや窪む。埋土には径10～20cm前後の円礫が大量に混じる。その礫群は掘り込み範囲を越えて広がる（写真３）。遺物は円礫に混じりながら小土器片が散発的に出土している。埋土や出土遺物から、SX-６に近似した時期の、やはりゴミ穴の可能性が考えられる。

（２）中世の遺構・遺物

水路であるSD-３・４・７・39・40、土壙SK-17・24に加えて、柱穴若干と掘立柱建物SB-33を復元できる（図３・４、写真３-１）。

SD-３　約30mにわたって東西に調査区を縦断する溝である。検出面で幅1.5～2.0m、断面逆台形状で、深さ20cm前後を残す（写真３-２）。出土遺物から、14世紀頃に埋没する溝と考えた。西側の文京遺跡20次調査SD-１に連接すると考えられ、さらに西側の13次調査SD-３も併せると、東西150mを超える直線的な溝となる。

SD-４　SD-３の南側に平行して検出した溝である。検出面で幅1.5～2.0mを測るが、東部の削平により調査区西壁から約10mの長さを確認したにとどまり、深さもわずか５cm前後を残すのみである。埋土は粗い砂粒を主体とする（写真３-２）。本来は、SD-３同様に調査区を縦断していたと考えられ、文京遺跡20次調査のSD-２ないしはSD-３に連接すると推測される。

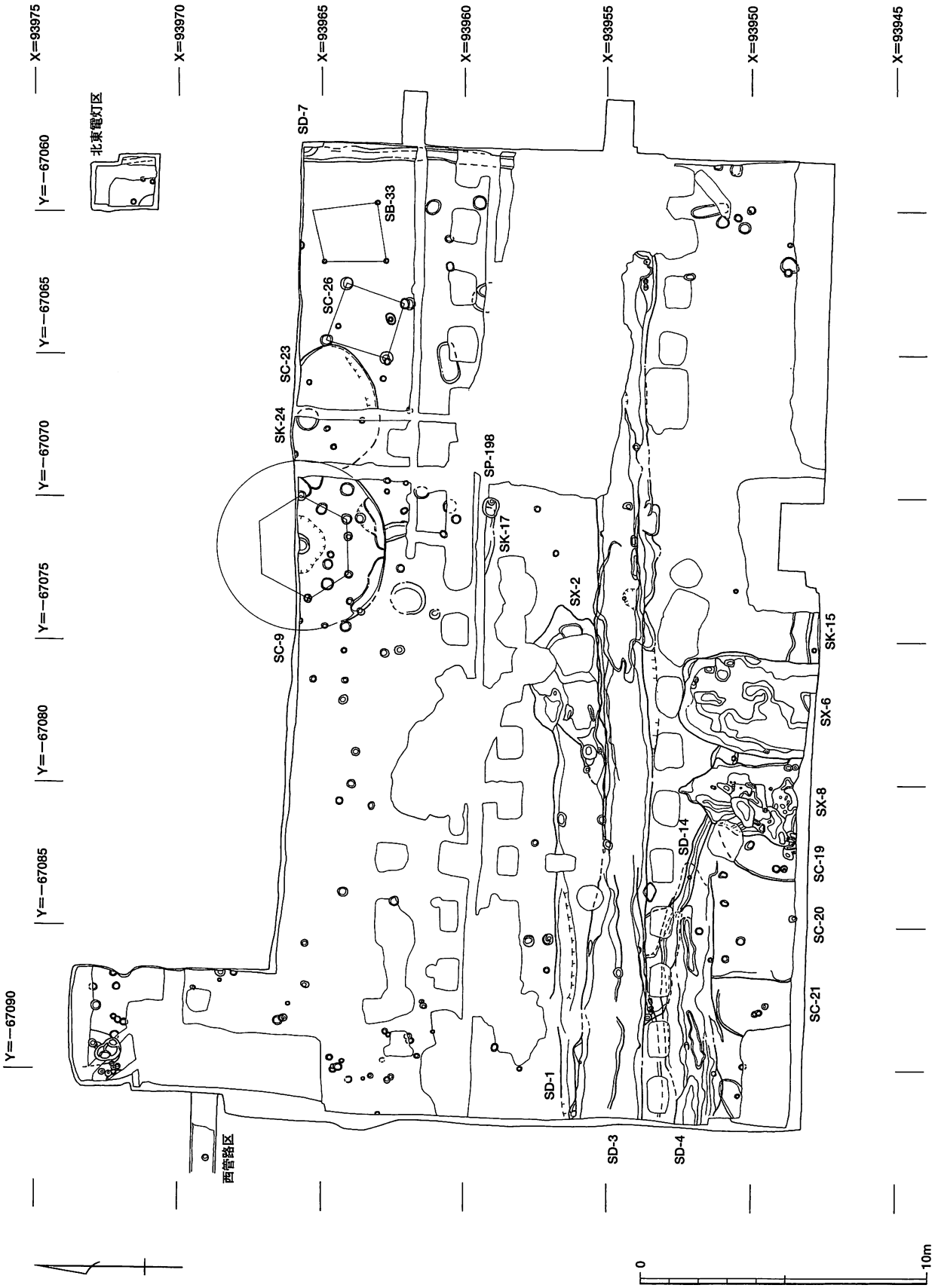


図３　00301（文京遺跡27次）調査遺構配置図１（縮尺 1/200）

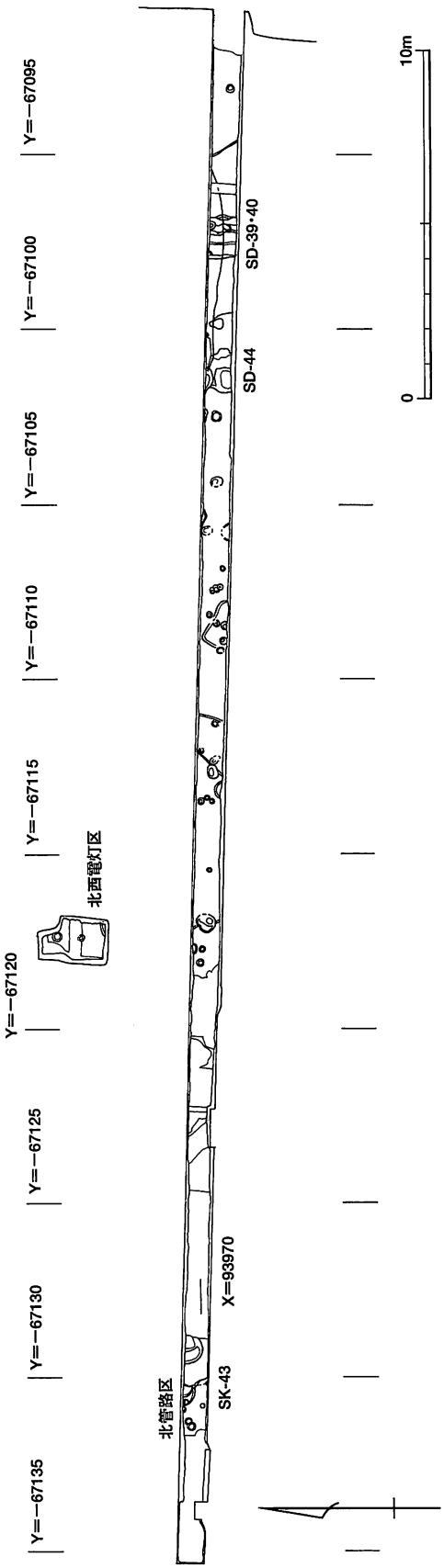


図４　00301（文京遺跡27次）調査遺構配置図２
（縮尺 1/200）

SD-７　調査区北東部の東壁際で確認した溝である。建物本体調査区内で8.5m、北東電灯区で約1.5mを検出し、南北14mを確認できたことになる。幅約40cm・底幅約20cm・深さ約20cmの逆台形状の断面で、埋土は細かな砂質土である。

SD-39・40　西管路区のＹ＝－67098付近を南北に横断する溝。粗い砂粒層で埋没する。検出時に東西２条に分かれ、SD-39・SD-40とそれぞれしたが、北側の文京遺跡26次調査ではSD-71とした幅１mを超える溝と認識しており、一連の遺構と考え、SD-39・40とした。

SK-17　北側を管路により切られる、東西約2.5m・南北幅0.5m以下・深さ30cmを残す細長い土壙である。底面付近で12世紀頃の陶器の鉢が出土している（写真３-４）。攪乱を被っていなければ、完形に復元できる陶器が存在したと推定され、墓の可能性が高い。

SK-24　当初、竪穴式住居SC-23の中央土壙と認識したが、瓦器の細片等を含む中世の土壙。焼土や炭化物を含み、径約70cmの西半部・深さ約25cmを残す。

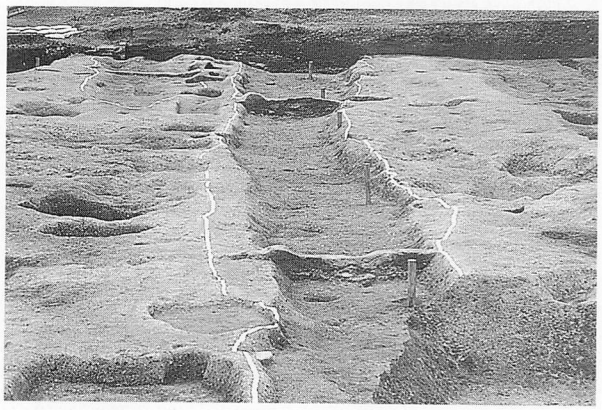
SB-33　調査区北東部に位置し、SP-211・212・223・（攪乱）からなる柱間約２mの１間×１間の掘立柱建物である。埋土の特徴から中世の建物と判断した。

（３）弥生時代の遺構・遺物

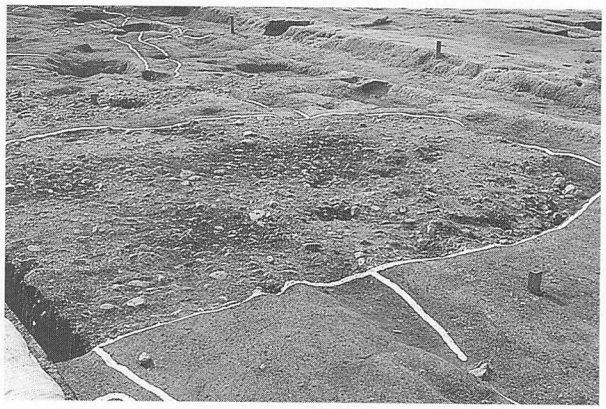
Ⅲ層掘削後に検出した、黒褐色～暗褐色砂質土を埋土とする遺構は、調査区南西部と北東部に偏っている。出土遺物や埋土の特徴から、明確な古墳時代の遺構は認められず、ほとんどが弥生時代の遺構である。竪穴式住居SC-９・19～21・23・26、溝SD-14、土壙SK-15・43等があり、他に柱穴が加わる（図３・４、写真４-１）。

SC-９　調査区北東部で南半のみを確認した竪穴式住居跡である。推定径約5.5mの円形で、20cm弱の深さを残す。中央土壙（SK-27）南半と、６本主柱穴のうちの４基（SP-231・236・239・241）を確認した（写真４-４）。住居跡埋土から多くの遺物が出土するとともに（写真４-３）、床面付近でも比較的多くの遺物を出土し、弥生時代中期末葉の使用・廃絶と考えられる。出土遺物には、これまで文京遺跡で確認されていない大型台付鉢がみられ、同一個体はSC-９の南約3.5mに位置するSP-198からも出土している。また、

1：調査区全景（Ⅰ・Ⅱ層除去後、東から）

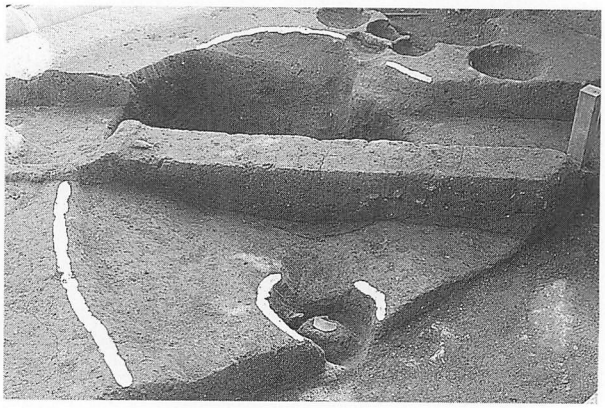


2：SD-3・4（東から）



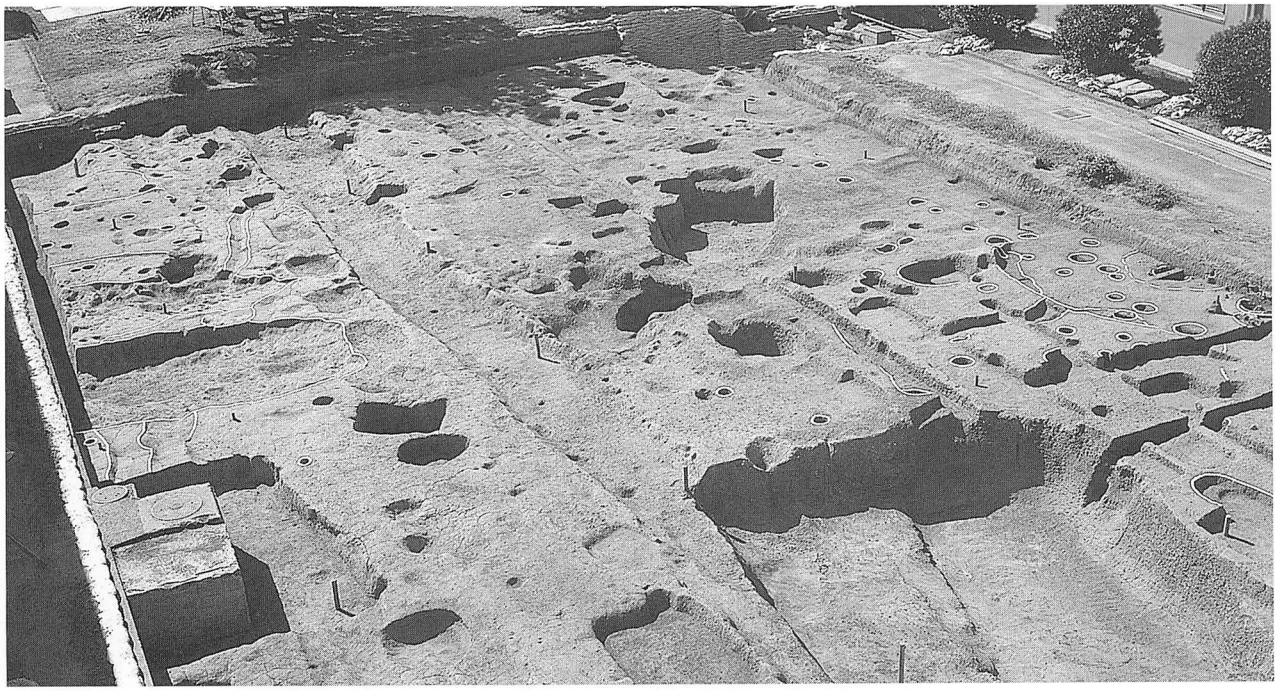
3：SX-6（南東から）

4：SK-17遺物出土状況



5：SK-10・11（北東から）

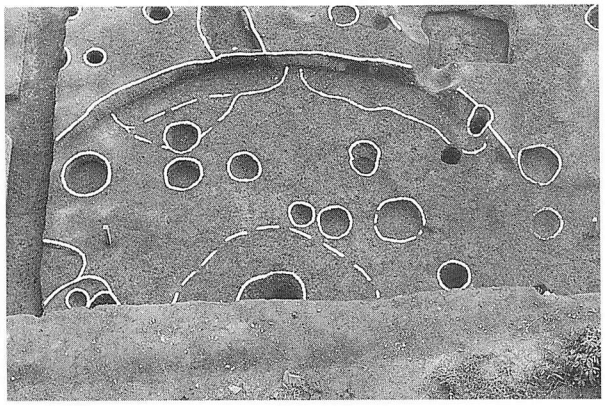
写真3　00301（文京遺跡27次）調査1



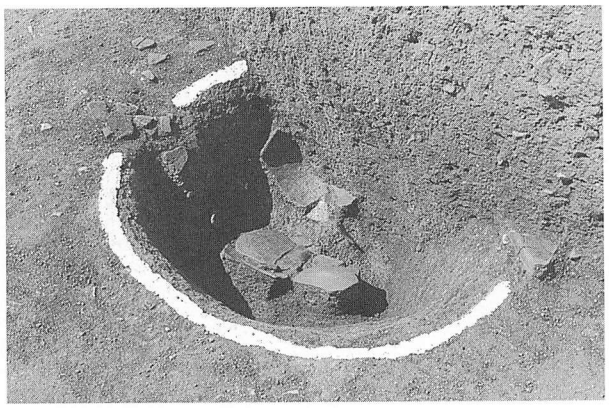
1：弥生時代の遺構完掘状況（南東から）

2：SC-9・23（南東から）

3：SC-9遺物出土状況（北西から）



4：SC-9完掘状況（北から）

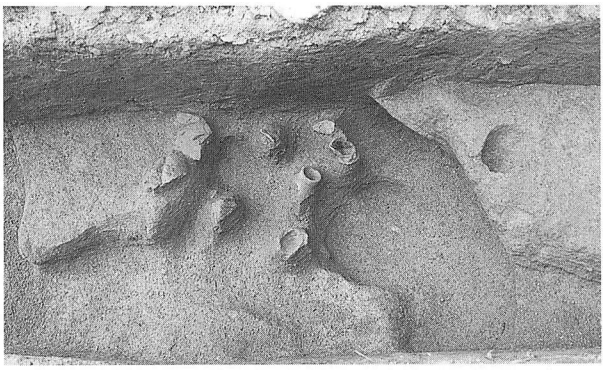


5：SC-9中央土壙（南東から）

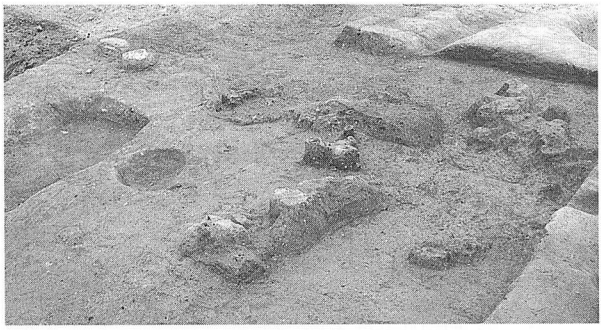
写真4　00301（文京遺跡27次）調査2

図５　00301（文京遺跡27次）調査黄褐色シルト質土下面（縮尺 1/200）

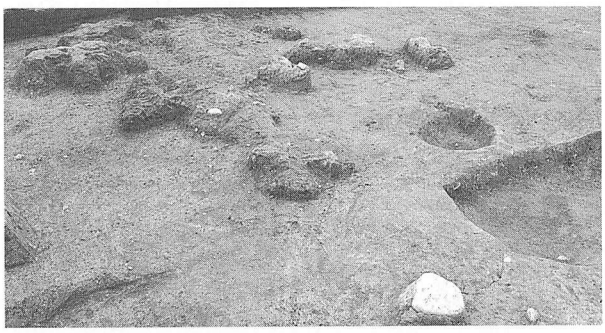
1：SC-19（南から）



2：SK-43遺物出土状況（北から）

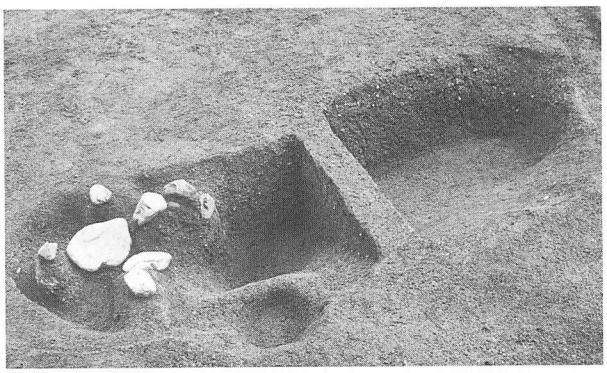


3：SX-35（南西から）



4：SX-35（北東から）

5：SK-36（北東から）



6：SX-37（北東から）

7：SX-49（北西から）

8：SX-49（東から）

写真５　00301（文京遺跡27次）調査３

分銅形土製品が５点以上、１点は床面直上から出土している。さらに、中央土壙からは多くの土器に混じって、茸状を呈する土製品１点も出土している（写真４－５）。

SC-19　調査区中央南部で検出した。SD-14・SC-20を切り、SX-６・８に切られる。推定径５ｍ前後の円形住居跡の一部が残存するのみで、深さも約10㎝（写真５－１）。床面で柱穴３基を検出し、SP-173は主柱穴の可能性がある。遺物が少量出土。

SC-20　SC-19の西側で検出した。SC-19・SD-４に切られ、南側に攪乱を受け、西辺が残るのみである。西辺はやや直線的ながら、平面形は不明。SP-216・220・221とSP-214もしくはSP-215が主柱穴となる可能性が高いが、主柱穴と西辺には食い違いがある。床面はSC-19より若干高い。土器片がまばらに出土している。

SC-21　SC-20の西側に接して検出した。南側は削平を受け、南端から北方向へ緩やかに傾斜する。しかし明確な掘り込みが見られないことから、約２ｍ×１ｍ程度の土壙か、住居の一部なのか断定できなかった。埋土には焼土塊群が混じる。

SC-23　SC-９の東側では、当初SK-24を中央土壙とする住居を想定したが、SK-24は中世の遺構であることが判明した。しかし、台石等の存在から、SC-９の東側に東西約５ｍ・南北約４ｍの、不整楕円形の竪穴式住居を想定し直した。掘り込みは不明瞭で、時期の詳細も不明である。

SC-26　SC-23の東側に、SP-206～209が2.25ｍ間隔で方格に並び、埋土の特徴から、弥生時代の４本主柱穴の竪穴式住居跡上部が削平されたと考え、SC-26とした。時期は不明である。

SD-14　調査区中央南部を東南東－西北西方向にのびる溝である。SX-６・８とSK-15に切られる。幅約40～90㎝を測り、断面Ｕ字形で、埋土ににぶい黄褐色～灰黄褐色砂質土を含む。

SK-15　調査区中央南部で検出した土壙である。SD-14を切り、西をSX-6に切られる。南北幅約１ｍを測り、東は攪乱を受け、全体の形状は不明である。

SK-43　西管路区の西端近くで検出した土壙。遺構の全容は不明である（写真５－２）。ただし、壁面が一部オーバーハングすることから、貯蔵穴と推測した。底部を中心とした出土土器から、弥生時代中期末葉の土壙と考えた。

（４）縄文時代の遺構・遺物

城北団地における基本層序Ⅳ層の黄褐色シルト質土の中からは、点々とながら調査区のほぼ全域で縄文土器が出土し、SX-35・36・49等の土器・炭化物の集中地点や、SX-37・38等の塊石集中地点が存在した（図５）。

SX-35　SD-４やSD-14底面で焼土塊を確認し、遺構精査を行ったが、明確な掘り形は検出できず、黄褐色シルト質土を28.70ｍ付近まで掘り下げて焼土面の広がりを検出した。その結果、土器片及び焼土塊・炭化物粒が約５ｍ四方に広がり、掘り下げ中にも、焼土塊や炭化物・サヌカイト剥片を多数確認した。焼土面は南北２ｍ、東西１ｍ程にわたって「コ」の字状に広がるが、やはり明確な掘り形は認識できなかった（写真５－３・４）。時期を特定できる遺物は少ないが、縄文時代後期の縁帯文段階の土器片が数点見られる。

SK-36　SX-35の焼土面下の土壙。「北」と「南」に２ヶ所の掘り込みが認められたが、別々の遺構なのか、同一の遺構内かは不明である（写真５－５）。「南」は約80㎝×約40㎝、「北」は約50㎝×約30㎝を測る。遺構埋土上面は、いずれも明黄褐色シルト質土が熱によってにぶい赤褐色を呈し、埋土中に５㎝未満の焼土塊や炭化物が大量に含まれ、少量のサヌカイト剥片も見られた。明確な時期を示す遺物はないが、SX-35と時期的には近接していると推測される。

SX-49　西管路区のＹ＝－67116付近で確認した土器溜まりである（写真５－７・８）。東西幅２ｍにも満たないが、土器が折り重なった状況で出土した。土器溜まりを包含する黄褐色シルト質土は砂性が強く、自然流路中と考えられる。ただし、出土土器があまり摩滅せず、比較的近傍からの供給と予想される。

３　調査のまとめ

近世については、これまで必ずしも明確でなかった様相を窺えるようになった。SD-１・SX-２といった水路により、周辺における農地などの土地利用が考えられる。これらの埋土に含まれる瓦や陶磁器片からは、付近に小規模な瓦葺き建物の存在が推測される。

中世には、SD-３・４といった東西方向の基幹水路と、SD-７等の枝水路をもち、近世以後よりも活発な農地利用が想定される。また、水路自体、直線的で東西150ｍを超える規模をもつことから、何らかの土地区画を反映したものである可能性が高い。なお、土壙

や掘立柱建物等もあり、農地に限らない土地利用も窺える。

今回の調査区では古墳時代の遺構は見出せなかった。20次調査地点でも、古墳時代後期の遺構は西部に偏り、同時期の集落域は城北団地南東部に広がらないようである。

弥生時代には、竪穴式住居６棟の他、土壙・溝・柱穴が確認でき、城北団地西部（旧グラウンド部分）ほどの密度ではないが、同時期の集落が東へと広がることが明らかになった。とくに、SC-９からは分銅形土製品５点以上や茸状を呈する土製品、大型台付鉢など、やや様相の異なる遺物の出土が認められた。今後、弥生集落内での詳細を比較・検討する上で、興味深い調査成果である。

縄文時代についても遺跡の存在を確認できた。しかし、Ⅳ層の黄褐色シルト質土自体むしろ砂性が強く、流水性の堆積が多くを占め、包含する土器も縄文時代中期から後期と幅広い。また、黄褐色のシルト質土以下も、城北団地基本層序Ⅴ層とした礫層の上に、無遺物層である砂・砂礫層が厚く堆積するなど、あまり安定した土地環境とは言えそうにない。ただし、その中でも、比較的安定した土地環境の時点には、SX-35・36等の土器・炭化物の集中地点が営まれる。

（吉田・三吉）

00302　（城北団地）総合研究実験棟新営工事樹木移植に伴う立会調査

調査地点　松山市文京町３番
　　愛媛大学城北団地構内
調査面積　39㎡
調査期間　2003年５月27日
調査の種別　立会調査
調査担当　吉田広・三吉秀充
依頼文書　施設部施設課長発事務連絡
　　（平成15年５月21日付）

1　調査にいたる経緯

総合研究実験棟新営工事に先立って、工事範囲内および周辺に存在する樹木の移植が必要となった。27次調査（調査番号：00301）の調査範囲内の樹木は発掘時に対応することとしたが、範囲外については立会形式で調査を行った。周辺の既往調査成果から、抜根により埋蔵文化財に影響が及ぶ対象樹木は10本である。なお、移植先については、ドミノ式に２地点に抜根・移植がなされることになったが、これらは周辺の既往調査成果から埋蔵文化財に支障がないと判断され、今回の立会調査からは除外した。

2　調査の記録

対象樹木のうち、およそ一列に並ぶイヌマキ８本については、布掘り状に一連のトレンチとし、都合３ヶ所のトレンチで調査を進めた（図７）。

［１トレンチ］

南側に位置するクロマツ抜根に伴うトレンチで、不整六角形状の４㎡の範囲である（写真６-２）。このクロマツ自体、現在の無細胞生命科学工学研究センター建物の建設時に移植されてきたもので、現地表下約40㎝まで表土層、標高約29.20ｍで城北団地基本層序Ⅳ層が現れた。周辺の北側道路舗装面より約10㎝高いレベルである。なお、樹木直下の径約1.2ｍ内外の範囲は、現地表下約55㎝でもなお表土層が続いている。表土層直下・Ⅳ層上で中世土師器の坏口縁部の細片が出土した（図６）。

［２トレンチ］

西側縁石内側に沿って南北に並ぶイヌマキ抜根に伴うトレンチである。長約10ｍ・幅約2.5ｍ、北側で東に若干Ｌ字状に膨らむ約29㎡の範囲である。当初計画では８本の移植であったが、現地に適合した樹木の選定から、９本の抜根となった。いずれの抜根においても、掘削深度は現地表下40㎝前後で、表土層内で収まっている。ただし、馬の背状に高い中央部と縁石近くでは、掘削深度の標高に差があり、最高所では北側道路舗装面に等しい29.10ｍ、最低部では28.85ｍである。遺物は、Ⅲ層から弥生土器の胴部破片４点ほどが出土したが、細片化し図示できない。

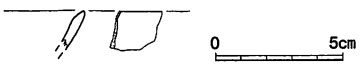


図６　00302調査１トレンチ出土遺物実測図
（縮尺 1/3）

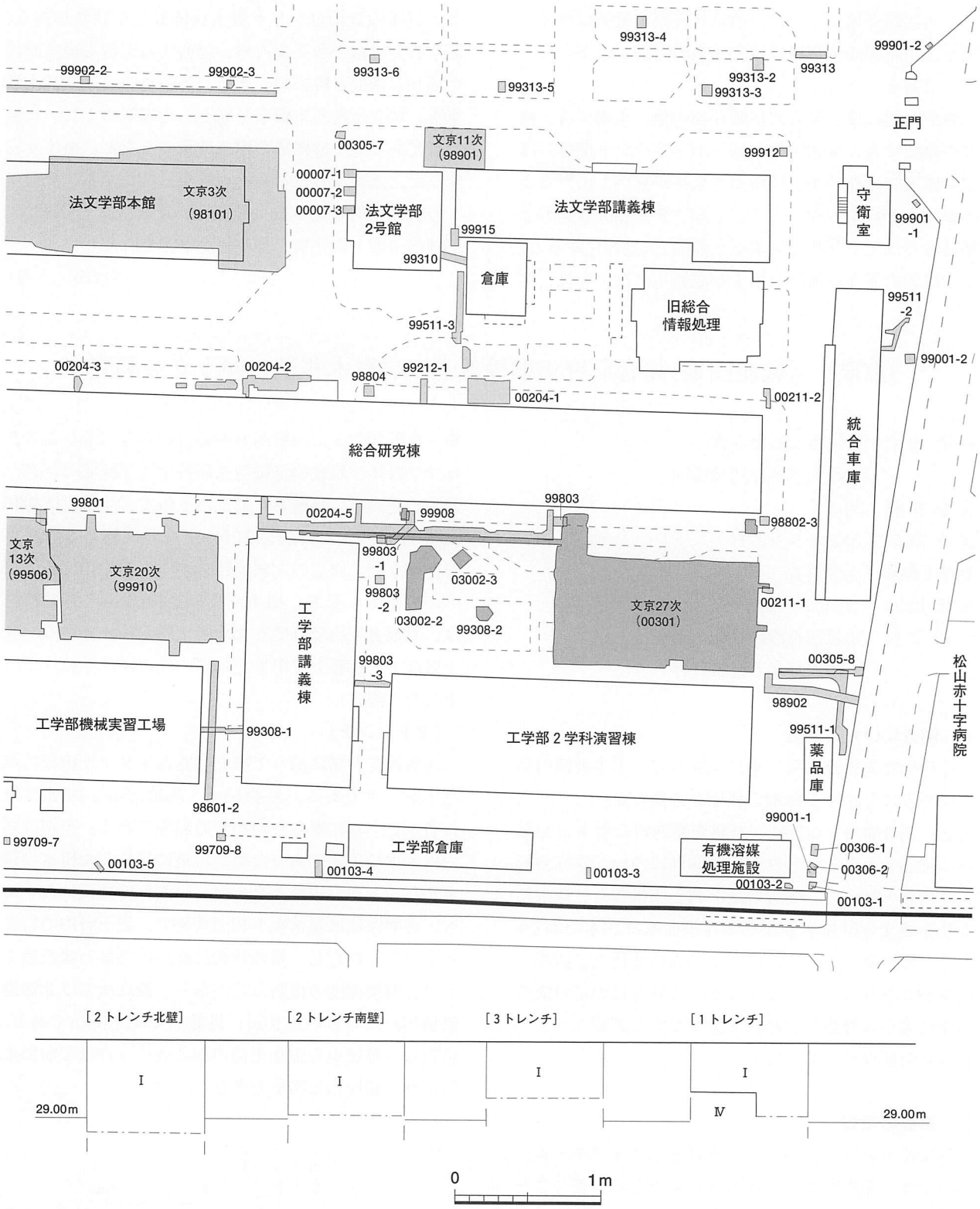


図7　00301・00302調査地点位置図・00302調査土層柱状図（縮尺 1/1,000・1/40）

1：調査地点遠景（調査前、北西から）

2：1トレンチ（東から）

3：3トレンチ（西から）

写真6　00302調査1・3トレンチ

［3トレンチ］

北側に位置するトレンチで、約6㎡の不整五角形の範囲を、現地表下約40㎝まで調査した（写真6-3）。しかし、表土層が続き、出土遺物もない。

3　調査後の対応

以上の所見を記録した上で、埋め戻しが行われるのを確認した後、調査を終了した。　（吉田）

00303　（城北団地）放送大学愛媛学習センターサイン取設工事に伴う立会調査

調査地点　松山市文京町3番
　　愛媛大学城北団地構内
調査面積　3.1㎡
調査期間　2003年9月5日
調査の種別　立会調査
調査担当　田崎博之
調査補助　宮崎直栄

1　調査にいたる経緯

9月4日、法文学部講義棟北東で掘削工事が行われていることに気が付いた。この工事は、埋蔵文化財調査室だけでなく施設部へも連絡が一切なく進められていたもので、既往の調査成果から地表下40㎝ほどの掘削で弥生時代～中世の包含層を破壊していることが考えられた。

そこで、工事の一時中断を工事業者に依頼し、施設部を通じて工事を発注した部局とその工事内容を問い合わせた。その結果、共通教育棟西側の総合情報処理センターへの入り口地点と、正門近くの法文学部講義棟北東の道路際の2ヶ所に、放送大学愛媛学習センタ

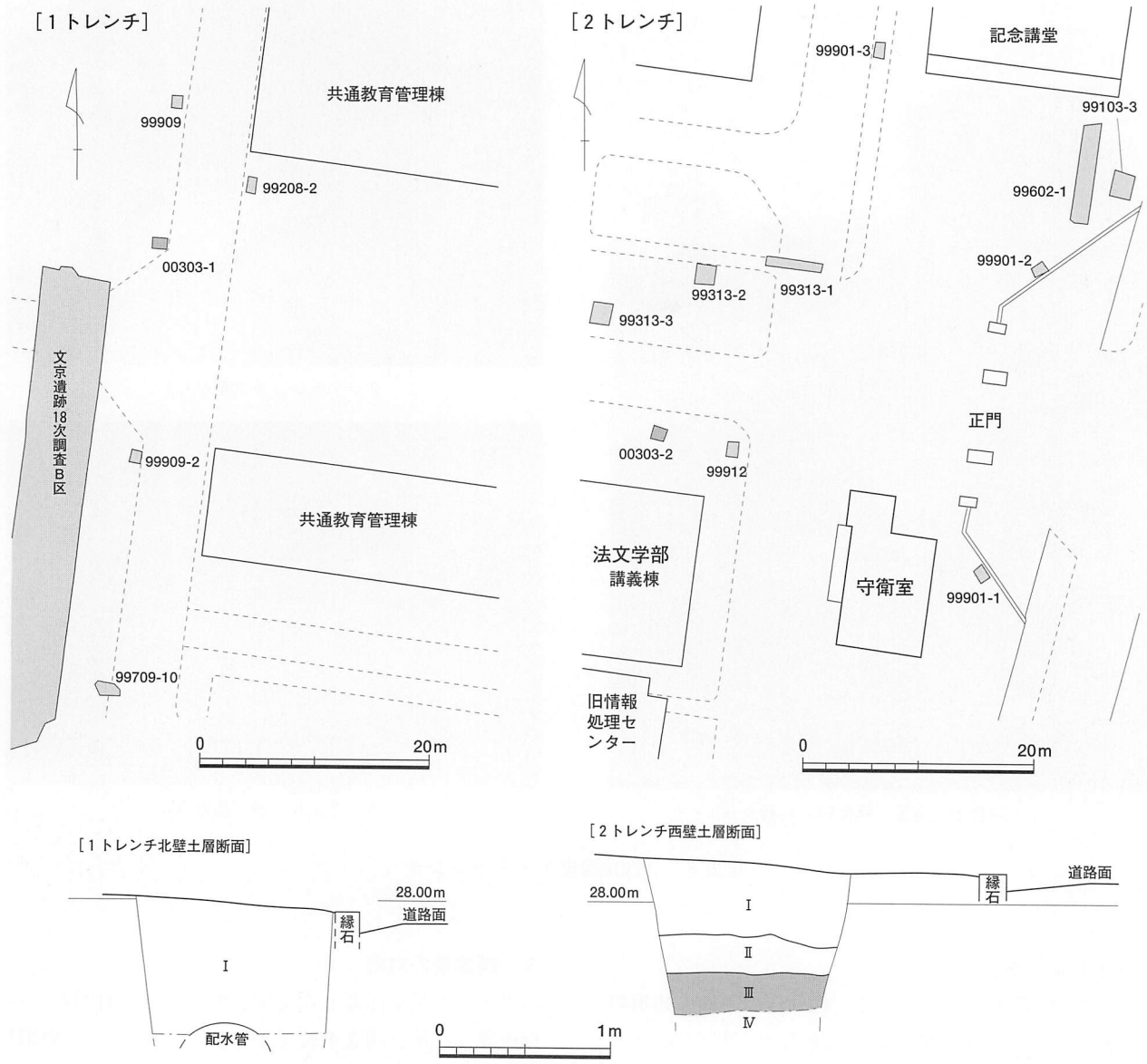


図８　00302調査地点位置図・土層断面図（縮尺 1/600・1/40）

ーへの案内板（サイン）を取設する工事であることがわかった。急遽、放送大学愛媛学習センターと校地の使用許可を担当する経理部主計課管財係へ連絡し、施設部とともに協議し、発掘調査を実施することとした。

2　調査の記録（図１、写真１・２）

２ヶ所の放送大学愛媛学習センターへの案内板（サイン）の取設工事地点の中で、共通教育棟西側の総合情報処理センターへの入り口地点は、すでに掘削が終わっている状態であった。ここを１トレンチとし、掘削途中である正門近くの法文学部講義棟北東の道路際を２トレンチとした。

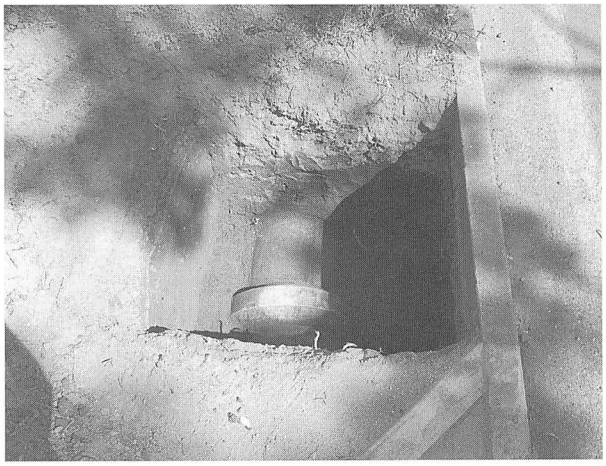
［１トレンチ］

共通教育棟西側の総合情報処理センターへの入り口地点で、地表下70cmまで掘削済みであった。幸い工事地点は既存の排水管上にあり、埋蔵文化財に影響がないことを確認できた。

［２トレンチ］

２トレンチは、正門近くの法文学部講義棟北東の道路際に位置する。地表下40cmで灰褐色砂質シルトの水田層を確認した。城北団地全域における基本層序のⅡ層である。下半部にはマンガン・鉄分が沈着している。地表下60～65cmで、砂質黒褐色シルト層があらわれた。

1：1トレンチ位置（南東から）



2：1トレンチの状況（南から）

3：2トレンチ位置（東から）

4：2トレンチ北壁土層断面

写真7　00303調査1・2トレンチ

基本層序のⅢ層にあたる。砂礫は非常に少なく、パサパサした質感の土層で、厚さ20～25cmを測る。Ⅲ層中位から弥生土器の胴部細片が点々と出土した。地表下80～90cmで黄褐色シルトのⅣ層があらわれた。

3　調査のまとめと問題点

今回の工事に伴う根切り面は地表下80cmであり、Ⅳ層下部に予想される縄文時代後期の遺構・遺物を包含する層序まで掘削が及ばない。そのため、Ⅳ層上面までで調査を終えることとし、慎重工事を依頼した。

さて、愛媛大学城北団地には、縄文時代～中世の埋蔵文化財が濃密に分布しており、諸工事に伴って埋蔵文化財に影響がおよぶ場合、埋蔵文化財調査室と施設部は協議しながら、その保護に努めている。その保護のため、毎年度当初、各部局で計画されている掘削を伴う工事についての予定表の提出を求めている。ところが、今回の工事は施設部や埋蔵文化財調査室に事前の連絡なく進められたもので、これに対応して急遽調査を実施した。今後、こうしたことが生じないように、各部局への周知化をさらに図る必要がある。また、今回の工事を発注した放送大学愛媛学習センターと、校地使用を許可する経理部主計課管財係には、その周知化の徹底を申し入れた。　（田崎）

00304　(城北団地)理学部総合研究棟改修工事に伴う全面調査
(文京遺跡28次調査)

調査地点　松山市文京町２番５号
　　愛媛大学城北団地理学部構内
調査面積　45㎡
調査期間　2003年12月１日～12月16日
調査の種別　本格調査
調査担当　田崎博之
調査補助　宮崎直栄

1　調査までの経緯

2002年３月、施設部長から埋蔵文化財調査室に、理学部本館の改修工事を２期に分けて実施する計画があること、工事設計の工夫で埋蔵文化財への影響を最小限にとどめたい旨の報告があり、2003年７月29日に開かれた埋蔵文化財調査委員会では、この改修工事に伴う発掘調査が了承された。

８月以降、施設部と協議を重ね、改修工事に伴って配管が設置される地点の全面調査を行うこととした。ところが、調査を開始すると、工事範囲の大部分が理学部本館建設時の余掘り部分に収まることが確認された。そこで、施設部と再度の協議を行い、理学部本館北側の工事範囲のすべてを余掘り部分に収める設計変更を依頼した。その工事変更が可能となり、理学部本館北西端から約90ｍで１～７トレンチの調査を12月１・２日で終了し、改めて12月９日～16日に理学部本館南側の調査を再開した。この南側の調査でも、余掘り部分が予想した以上に広く、建物南西端の８トレンチと正面玄関東側の９トレンチでの調査に限ることとした（図９）。

2　調査の概要

１～７トレンチは理学部本館北西側に位置し、８次調査Ⅳ区との間にある。８トレンチは本館建物の南西角。９トレンチは正面玄関東側にあり８次調査Ⅰ区と99806調査地点との間に位置する（図９、写真８-１・２）。

［１トレンチ］

理学部本館北西角に位置する。地表下90㎝まで掘り下げたが、攪乱された土層であった。理学部本館の建設に伴う余掘り部分にあたる（写真８-３）。

［２トレンチ］

１トレンチの東側３ｍに位置する。地表下130㎝まで掘り下げたが、攪乱された土層であった。理学部本館の建設に伴う余掘り部分にあたる（写真８-４）。

［３トレンチ］

１トレンチの東側11ｍに位置する。理学部本館建物壁から2.1ｍまで余掘り部分、北端は既設の配管工事で破壊され、わずかに50㎝幅でⅢ層が残存しているにすぎない。Ⅲ層は黒褐色砂質シルトで、厚さ５㎝ほどしか残っていない。遺物は出土せず、Ⅳ層上面で精査したが、遺構も検出していない（図10、写真８-５・６）。

［４トレンチ］

１トレンチの東側11ｍに位置する。理学部本館建物壁から2.4ｍまで余掘り部分、北端も既設の配管工事で破壊され、配管直下のわずかに25㎝幅でⅢ層が残存していた。Ⅲ層は、黒褐色砂質シルトで、厚さ８～10㎝ほどしかなく、遺物も出土しなかった。北側に隣接する８次調査Ⅳ区では、古墳時代後期の６世紀代の須恵器が出土する自然流路SR-３が検出されている。しかし、これに対応する粗砂は確認できなかった（図10、写真９-１・２）。

［５トレンチ］

１トレンチの東側約55ｍに位置する。理学部本館建物壁から2.5ｍまで余掘り部分で、既設の配管下にⅢ層が残存しているにすぎなかった。Ⅲ層は、黒褐色砂質シルトで、厚さ10㎝ほどしか残っておらず、遺物も出土していない。北側に隣接する８次調査Ⅳ区では、縄文時代晩期終末の刻目突帯文土器が出土する土壙SK-13や小穴SP-206が検出されている。Ⅲ層を掘り下げた後、Ⅳ層上面で遺構検出に努めたが、これらと関連する遺構は出土していない（図10、写真９-３・４）。

［６トレンチ］

１トレンチの東側約70ｍに位置する。理学部本館建物壁から2.2ｍまで余掘り部分で、わずかに配管の直下にⅢ層が残存しているにすぎない。Ⅲ層は黒褐色砂質シルトで、厚さ約10㎝。Ⅲ層からは遺物は出土せず、Ⅳ層上面で精査したが、遺構も検出されていない（図

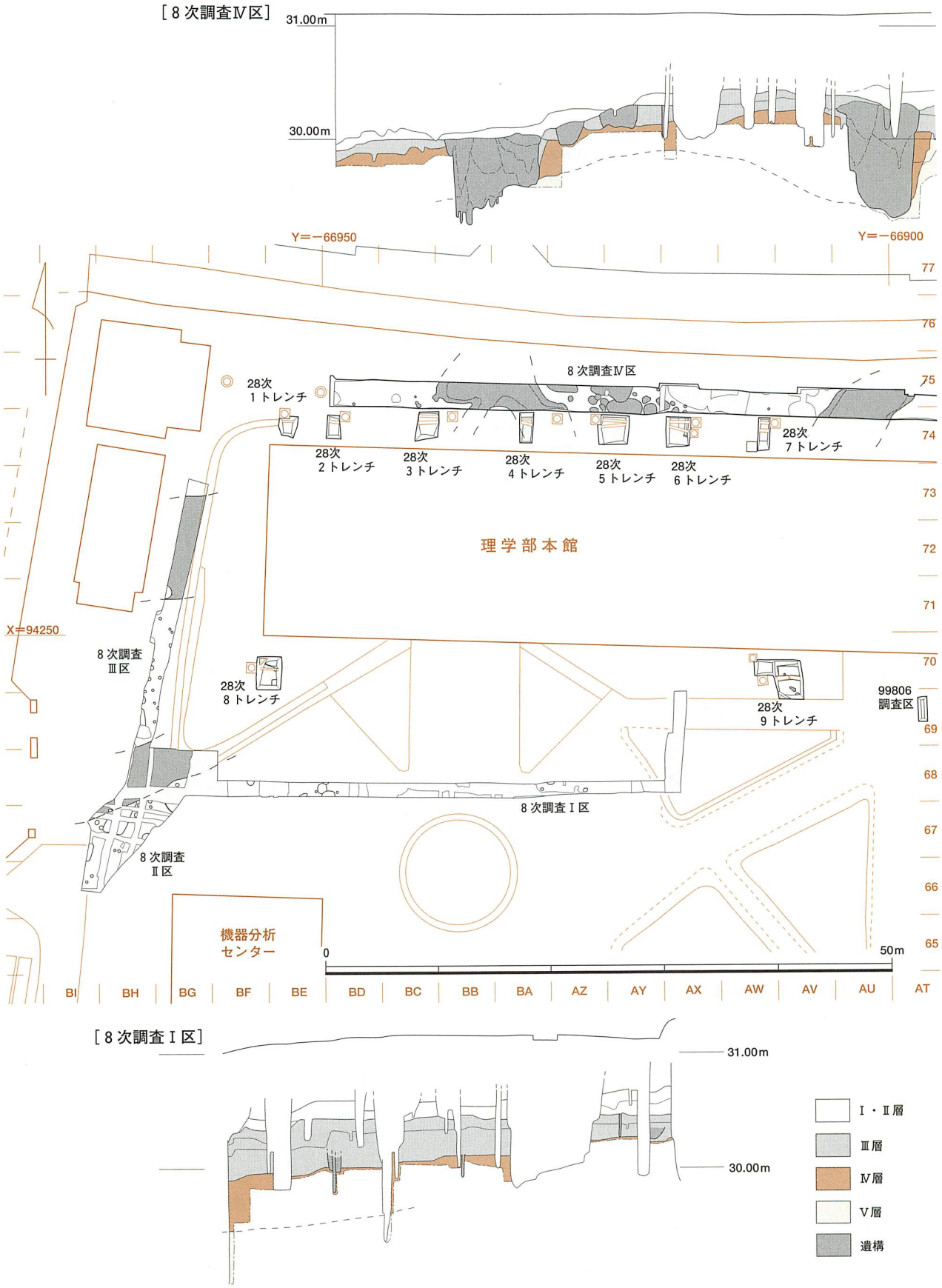


図9　00304（文京遺跡28次）調査周辺の既往調査（縮尺 1/1,000・1/50）

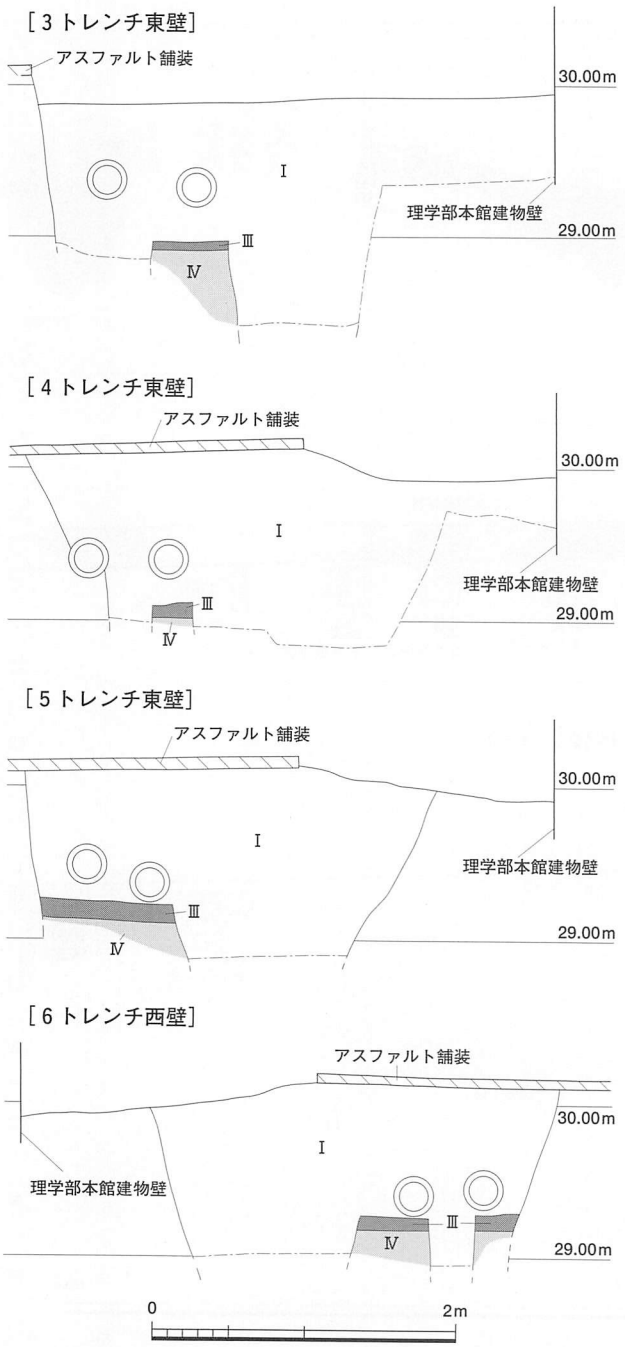


図10　00304（文京遺跡28次）調査３～６トレンチ土層断面図（縮尺 1/50）

10、写真９-５・６）。

［７トレンチ］

１トレンチから東へ約80mほど離れた、理学部本館北側に設定したトレンチでもっとも東端に位置する。地表下135cmまで掘り下げたが、本館建設に伴う余掘りと既設管路のために攪乱された造成土層が続く（写真９-７・８）。

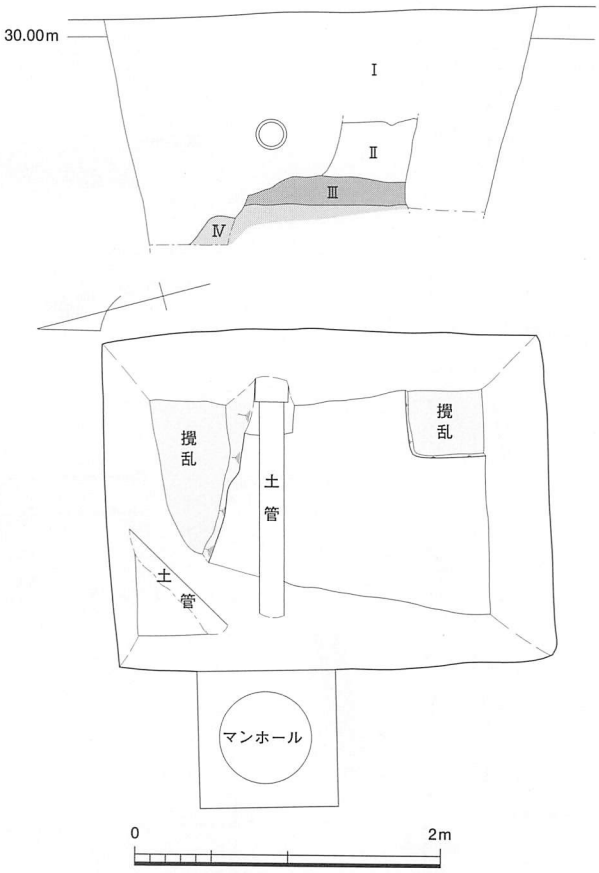


図11　00304（文京遺跡28次）調査８トレンチ実測図（縮尺 1/50）

［８トレンチ］

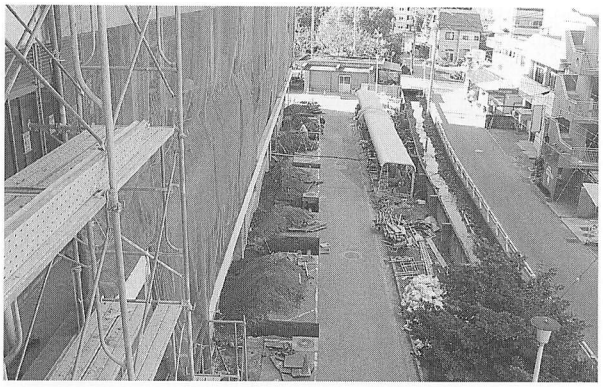
理学部本館南西角に位置する。調査区の北端は理学部本館建設時の余掘り、南東隅も建物基礎で攪乱されている。地表下110cmでⅢ層があらわれた。Ⅲ層は厚さ18cm前後。Ⅲ層を掘り下げⅣ層上面を精査したが、遺構は出土していない（図11、写真10-１・２）。

表土層にあたるⅠ層は、理学部本館建設に伴う造成土である。Ⅱ層は暗緑灰色砂質土で、径１～３cmの花崗岩の円礫が多く混じる。Ⅲ層は、暗褐色砂質シルトで、径３～５cmの丸い黒褐色砂質シルト塊や径0.5cmほどの花崗岩礫がまばらに混じる。Ⅳ層は褐色砂質シルトで、最上部は径２～３cmの丸い黒褐色砂質シルト塊が多く混じるⅢ層との漸移部分である。

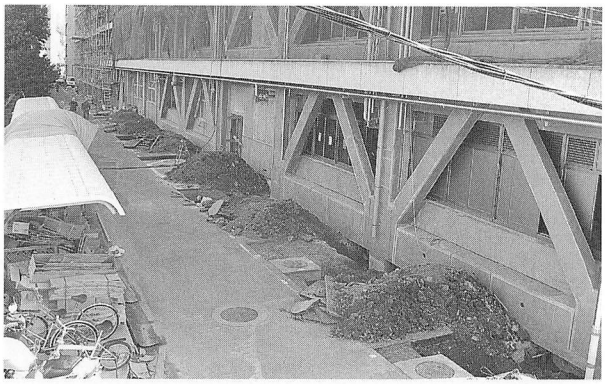
遺物は出土していない。

［９トレンチ］

理学部本館建物南側に位置する。調査区北端は、理学部本館建設時の余掘りで攪乱されていた。中央の東



1：1～7トレンチ（東から）

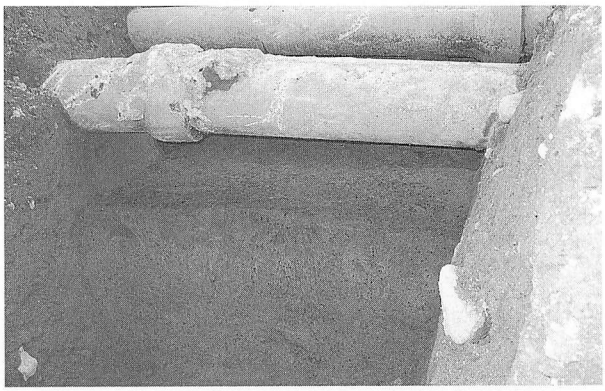


2：1～7トレンチ（北西から）

3：1トレンチ（南から）

4：2トレンチ（南西から）

5：3トレンチ（南東から）

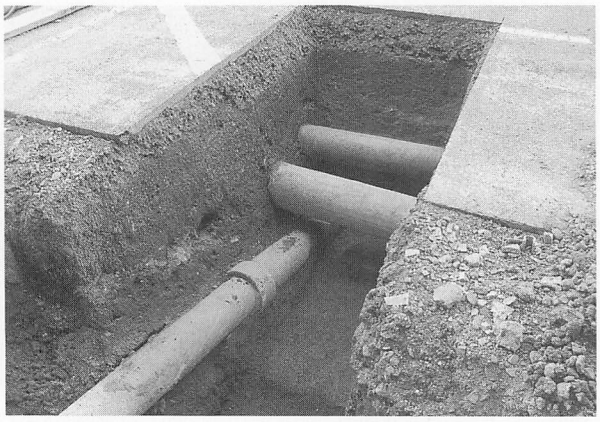


6：3トレンチ余掘り壁断面

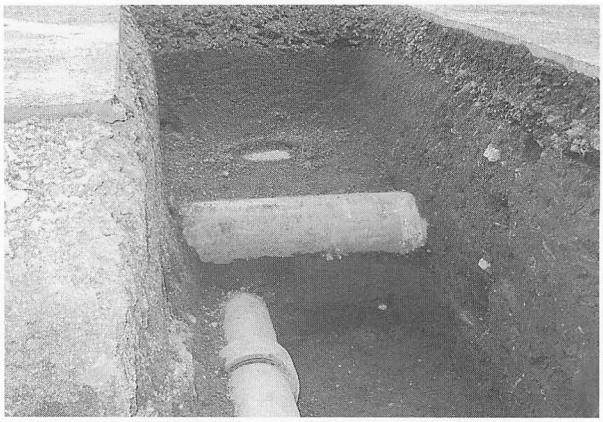
写真8　00304（文京遺跡28次）調査1～3トレンチ

西にはしる配水管を挟み、その南北を調査した。地表下70～75cmでⅢ層があらわれた。Ⅲ層を掘り下げ後、Ⅳ層上面でSP-1～3の小穴を検出した（図12、写真10-3・4）。Ⅲ層およびSP-1～3からは遺物は出土しなかった。その後、Ⅳ層を掘り下げたところ、縄文土器・石器・花崗岩円礫・炭化物片が出土し始めた（図12、写真10-5～8）。出土状況の記録を取りながら精査したが、遺物は後述するⅣ①-1層～Ⅳ①-2層に集中し、Ⅳ①-3層では出土しなくなる。そこで、Ⅳ層下部のⅣ②層については調査区の東端を幅60cmで溝状に深掘りし、土層の堆積状況を確認することとした（写真11）。

表土層にあたるⅠ層は、理学部本館建設に伴う造成土である。その際に掘り上げられたⅢ層の2次堆積部分がみられる。Ⅱ層は砂礫混じりの浅黄色シルトで、城北団地造成以前の水田床土層である。Ⅲ層は、黒褐色砂質シルトで、南壁では上層のⅡ層がしみ込みやや灰色みをおびた灰黄褐色に変化している。Ⅳ層は①・

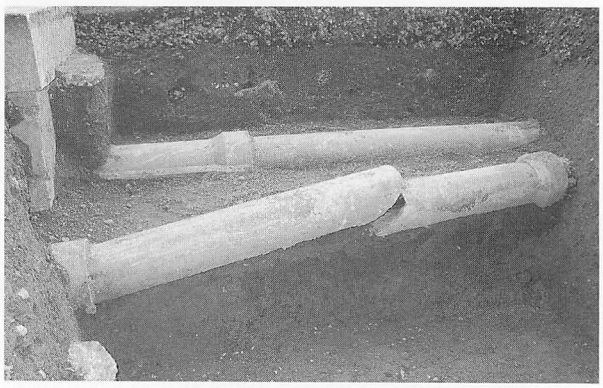


1：4トレンチ（南東から）

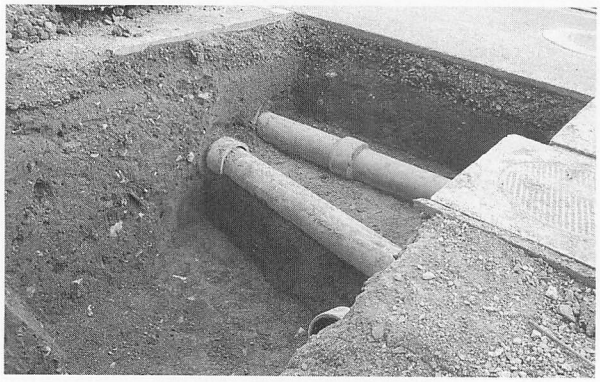


2：4トレンチ余掘り壁断面

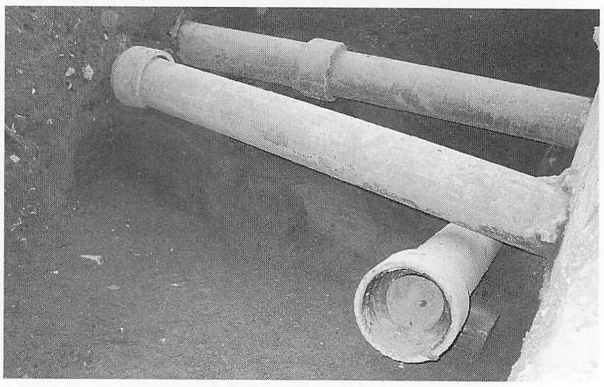
3：5トレンチ（南西から）



4：5トレンチ余掘り壁断面



5：6トレンチ（南東から）



6：6トレンチⅢ層残存状況

7：7トレンチ（東から）

8：7トレンチ余掘り壁断面

写真9　00304（文京遺跡28次）調査4～7トレンチ

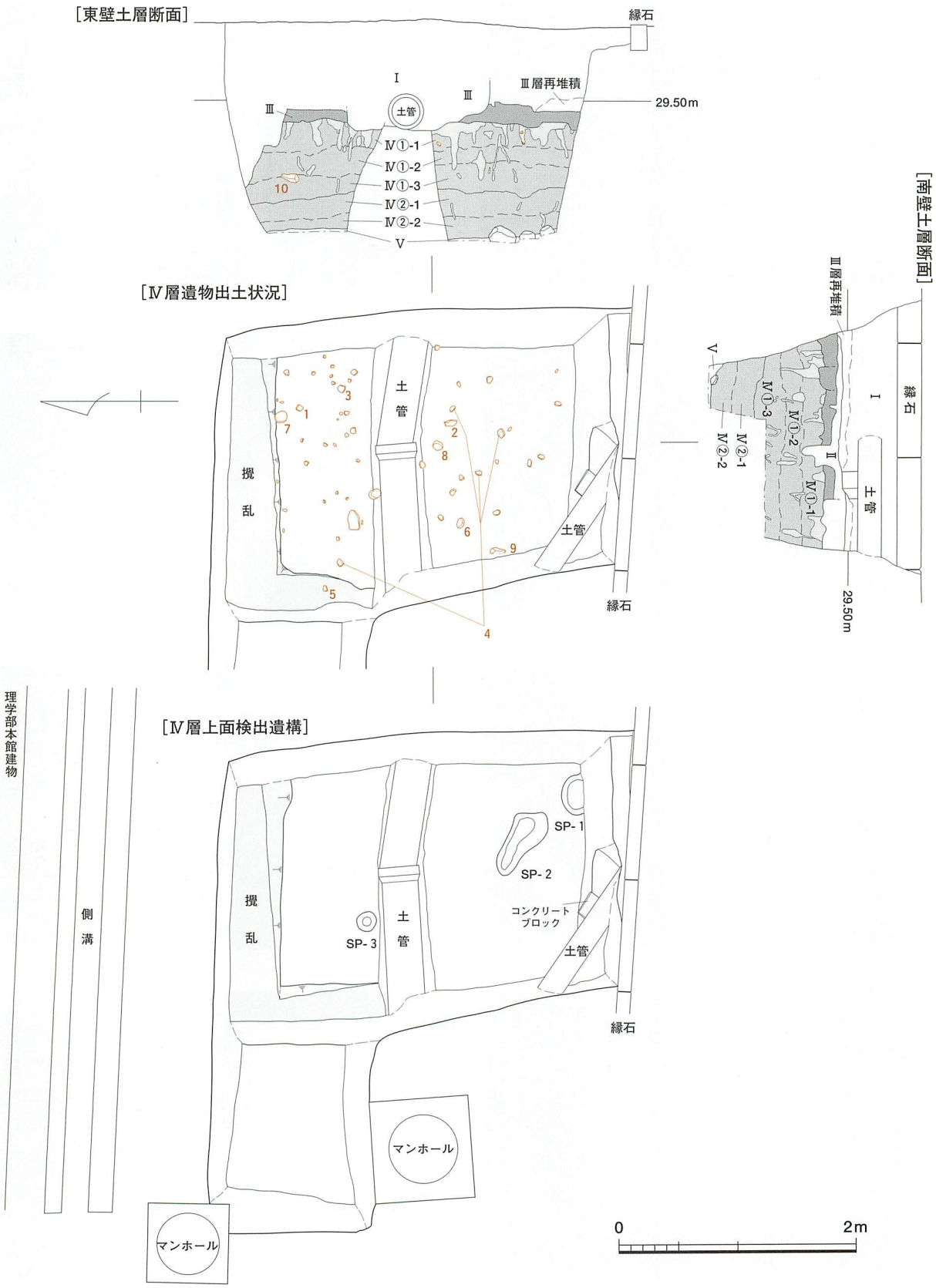
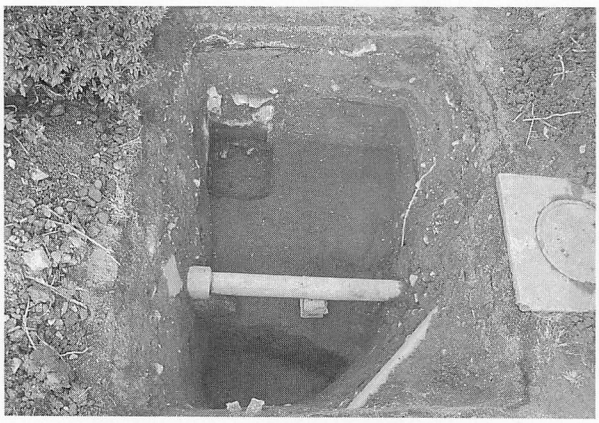
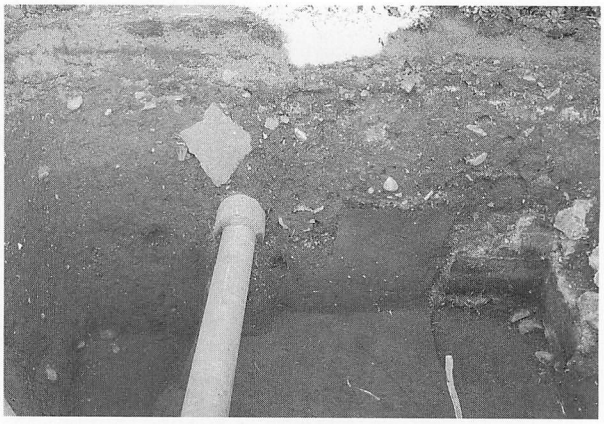


図12　00304（文京遺跡28次）調査９トレンチ実測図（縮尺 1/50）

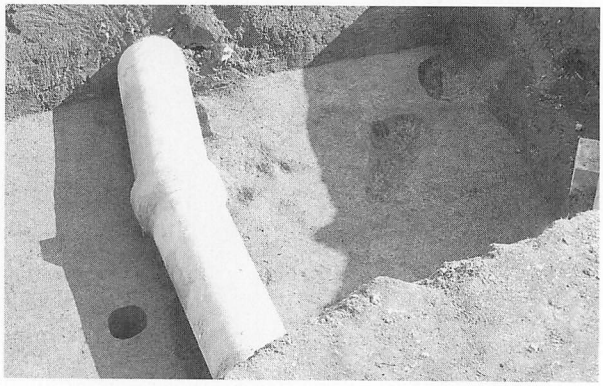


1：8トレンチⅢ層残存状況（北から）

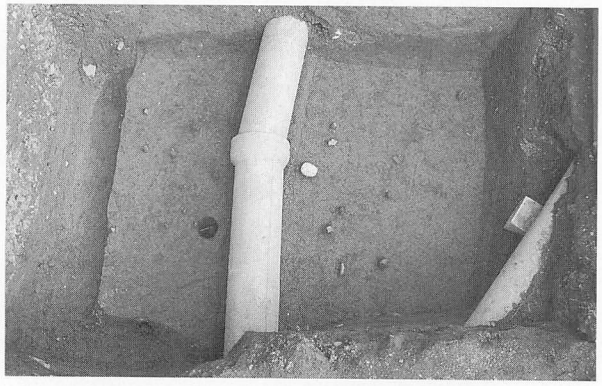


2：8トレンチ東壁土層断面

3：9トレンチⅣ層上面遺構検出状況（北西から）

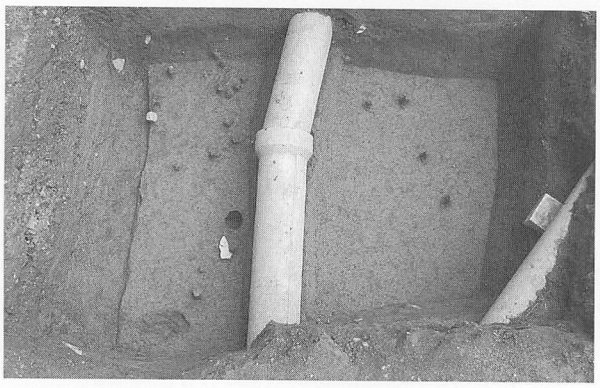


4：9トレンチⅣ層上面SP-1～3完掘状況



5：9トレンチⅣ①層上半部遺物出土状況

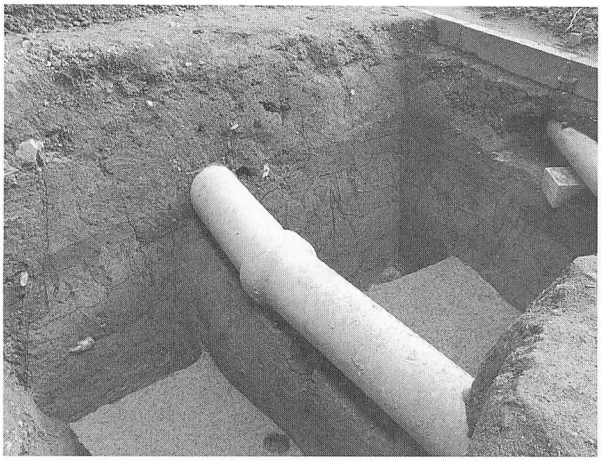
6：9トレンチ南半部Ⅳ①層遺物出土状況



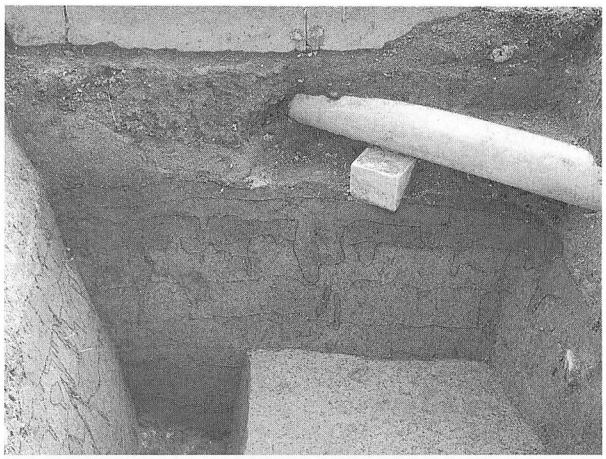
7：9トレンチⅣ②層遺物出土状況

8：9トレンチ北半部Ⅳ②層遺物出土状況

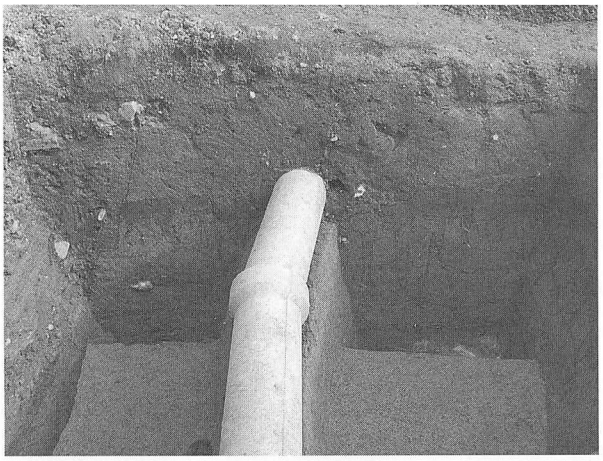
写真10　00304（文京遺跡28次）調査8・9トレンチ



1：9トレンチ完掘状況



2：9トレンチ南壁土層断面



3：9トレンチ東壁土層断面

4：9トレンチ南半部東壁Ⅳ①層の生物擾乱状況

写真11　00304（文京遺跡28次）調査9トレンチ

②層に分層できる。上部のⅣ①層は明黄褐色砂質シルト。下部ほど砂質が強くなり、Ⅳ①-1層は砂質シルト、Ⅳ①-3層は砂質土、Ⅳ①-2層はその漸移的な土層からなる。全体に微細砂のラミナがみられるが、Ⅲ層が小指先大の小塊が混じる生物擾乱の痕跡で乱されている。下部のⅣ②層は灰オリーブ色細砂層で、上部のⅣ②-1層は微細砂層、下部のⅣ②-2層は細砂層で、いずれも非常に薄いラミナが観察できる。Ⅳ①層と比べて生物擾乱の痕跡は少ない。Ⅴ層は人頭大の花崗岩の円礫がつまる砂礫層である。

Ⅳ層上面で検出したSP-1は、南壁沿いの径23cmほどの楕円形の小穴である。深さ7～12cm。SP-2は細長い不整形で、長さ62cm、最大幅30cm、深さ4～6cmを測る。SP-3は径15～18cm、深さ36cmほどの円形を呈する。いずれも埋土は暗褐色シルトで、小指～親指大のにぶい黄褐色シルト塊が混じる。

Ⅲ層およびSP-1～3に伴う遺物はない。Ⅳ層上部にあたるⅣ①-1層～Ⅳ①-2層からは、縄文土器・石器・花崗岩円礫・炭化物が出土した（図13）。土器と炭化物はいずれも小片である。Ⅳ層中の遺物は、Ⅳ①層の上下から満遍なく出土し、図13-4のようにやや離れた地点で出土したものが接合する。Ⅳ層にラミナが含まれていることから、窪地に雨水でⅣ層が自然堆積する過程で流れ込んだ遺物と考えられる。また、土器や炭化物片には、生物擾乱の痕跡中から出土したものが含まれる。

Ⅳ層出土遺物を図13と写真12に示した。1～5は縄文時代後期の深鉢である。1・2は幅3㎜前後の浅い沈線文の間に縄文が施されている。同一個体の可能性が高い。3は内外面ともに強い横方向の擦過痕が残る胴部破片。4・5は底部破片である。4は4片の破片が接合する。5は小片のために底径は不確実である。

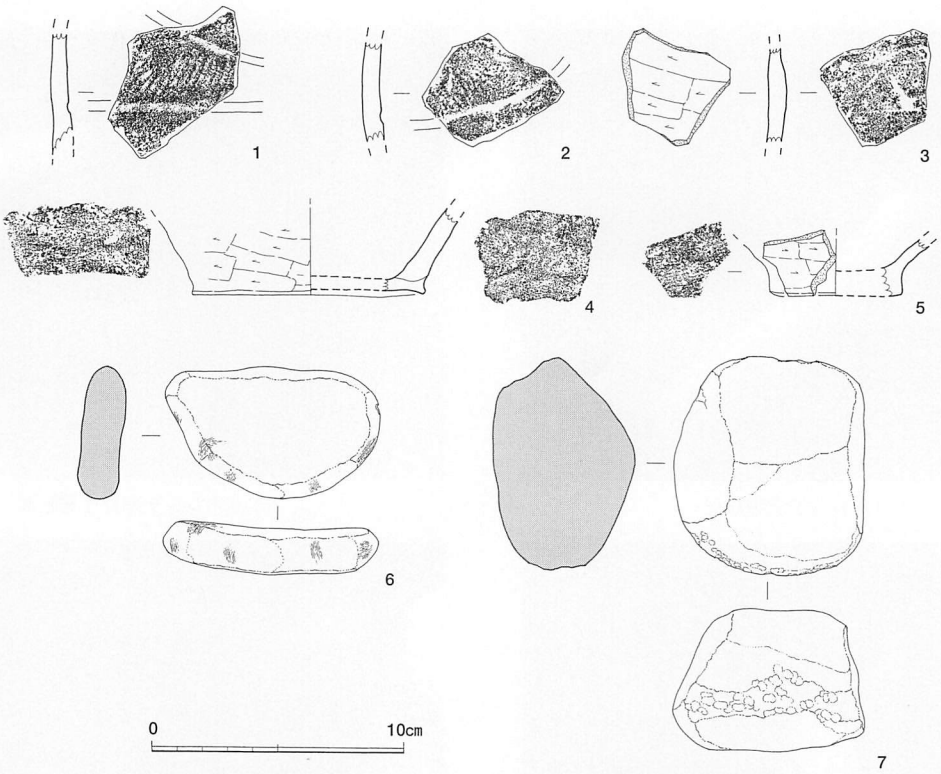


図13　00304（文京遺跡28次）調査９トレンチ出土遺物実測図（縮尺 1/3）

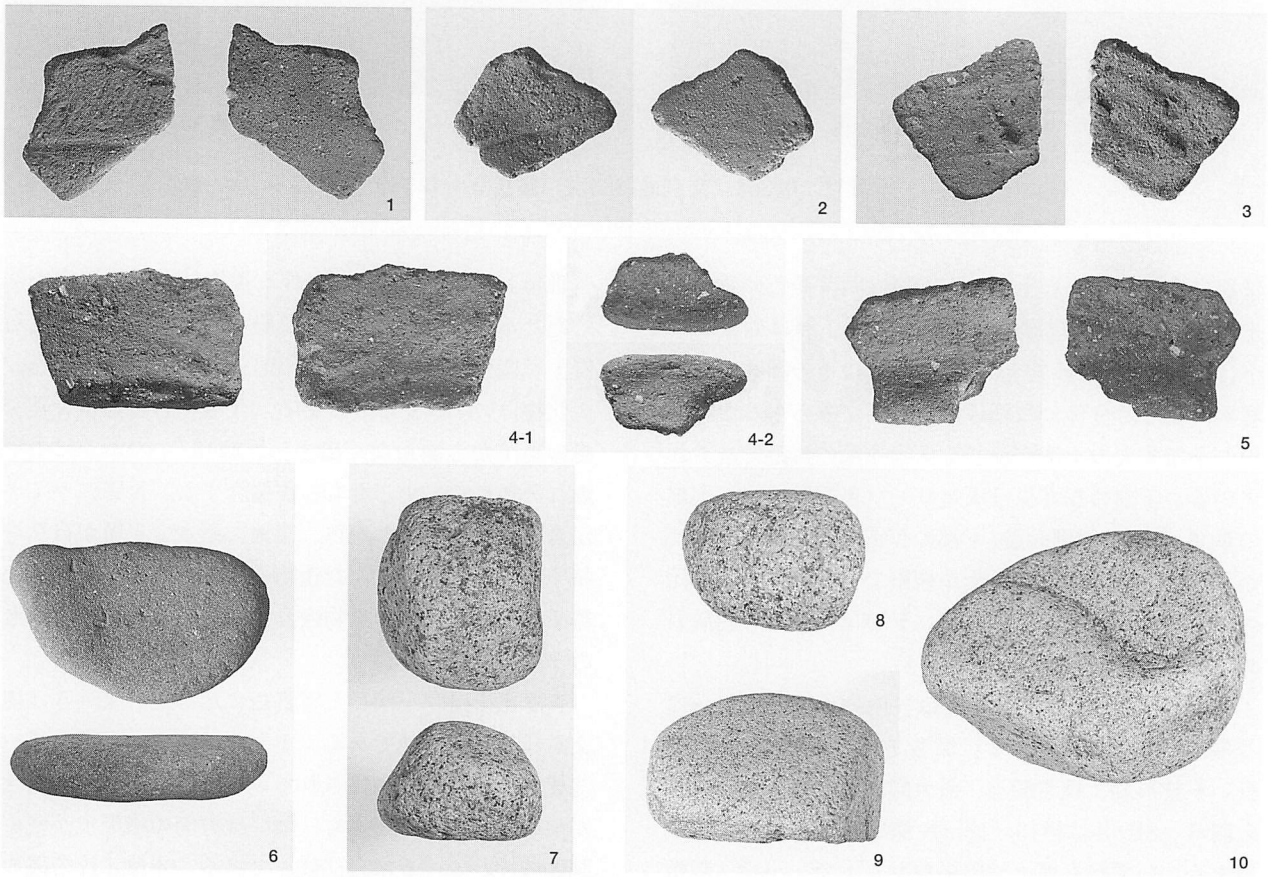


写真12　00304（文京遺跡28次）調査９トレンチ出土遺物

この他の土器は胴部の細片ばかりで、図化できなかった。6は扁平な砂岩円礫の側面に擦痕が残る磨石。7は拳大の花崗岩亜円礫の一端に敲打痕が残る敲石である。8～10にも花崗岩円礫の側辺の一部に敲打痕が観察できる。

3　調査のまとめと対応

理学部本館北側に設定した1～7トレンチと南西角の8トレンチでは、建物建設工事や多くの配管工事のため、Ⅲ層の残存状況は著しく悪く、遺物・遺構は検出できなかった。これに対して、本館正面玄関東側の9トレンチでは、Ⅳ層中から縄文時代後期の遺物が出土した。この地点のⅣ層にはラミナが発達し、遺物の出土状況からも、雨水等により窪地にⅣ層が自然堆積する過程で流れ込んだ遺物と判断できる。周辺では、21・24次調査でⅣ層中から同時期の遺構や遺物が出土しており、それらに関連するものと考えられる。今後、当該期の遺構が発見される可能性が高まったものと言える。

以上の調査を終え、施設部と協議を行い、工事範囲を理学部本館建設に伴う余掘り範囲（建物壁から2.1mまで）に収めることを再度依頼した。　（田崎）

00305　（城北団地）安全衛生管理対策（実験盤等改修）工事に伴う立会調査

調査地点　松山市文京町3番
　　愛媛大学城北団地構内
調査面積　12㎡
調査期間　2004年2月9日～2月10日
調査の種別　立会調査
調査担当　田崎博之・三吉秀充
調査補助　宮崎直栄
依頼文書　施設部施設課長発事務連絡
　　（平成16年1月14日付）

1　調査の経緯

施設部より城北団地内における外灯設置計画が提示され、掘削予定地周辺で実施している既往の調査成果から、埋蔵文化財への影響が予想される計8ヶ所について、立会調査を実施することとした。

2　調査の記録

［1トレンチ］

教育学部2号館南に位置する。現地表下約70cmで基本層序Ⅲ層を確認した。Ⅲ層は灰褐色シルトで、上面にはマンガン粒が見られる。Ⅱ層とⅢ層の層界部から、古代から中世の土師器片が出土した。電灯設置工事で掘削される深度は地表下70cmまであり、Ⅲ層以下の土層に影響が及ばないことから、Ⅲ層上面の検出にとどめ、以下は調査を行わなかった（図14、写真13-1・2）。

［2トレンチ］

教育学部3号館南の1トレンチの東、約30mに位置する。現地表下約80cmで基本層序Ⅲ層を確認した。Ⅲ層は灰褐色シルトで、径1㎜の砂粒、マンガン粒を含んでいる。1トレンチと同様、掘削でⅢ層以下に影響が及ばないことから、Ⅲ層上面の検出にとどめ、以下は調査を行わなかった（図14、写真13-1・3）。

［3トレンチ］

教育学部4号館東、学務部事務室西側に位置する。2トレンチからは南東へ約42m離れている。現地表下約40cmまでⅠ層が続き、その直下でⅣ層に掘り込まれた遺構を確認した。北西－南東方向にほぼ一直線にのびる掘り形ラインをもち、埋土は灰褐色砂質シルトで、径1㎜未満の白色粒が少量混じる。遺構の全体像は不明であるが、壁がほぼ垂直に掘り込まれており、西側に隣接する文京遺跡15次調査（調査番号：99602）3トレンチで出土した竪穴式住居跡と関連するものと考えられる。遺物は出土していない（図14、写真13-1・4）。

［4トレンチ］

附属図書館北東側の植栽内に位置する。縁石面から掘削深度約95cmで基本層序Ⅲ層を確認した。Ⅲ層は暗赤灰色で、径1～2㎜の砂粒が多く混じる。Ⅲ層上面にはマンガン粒が多数見られる（図14、写真13-5・6）。

［5トレンチ］

附属図書館北側、共通教育大講義室南東部に位置する。大部分が99405調査の範囲と重複する。自転車置き場コンクリート面から約115cmまで瓦礫を伴った基本層序Ⅰ層が続く。Ⅰ層の下部にはⅡ・Ⅲ層は見られ

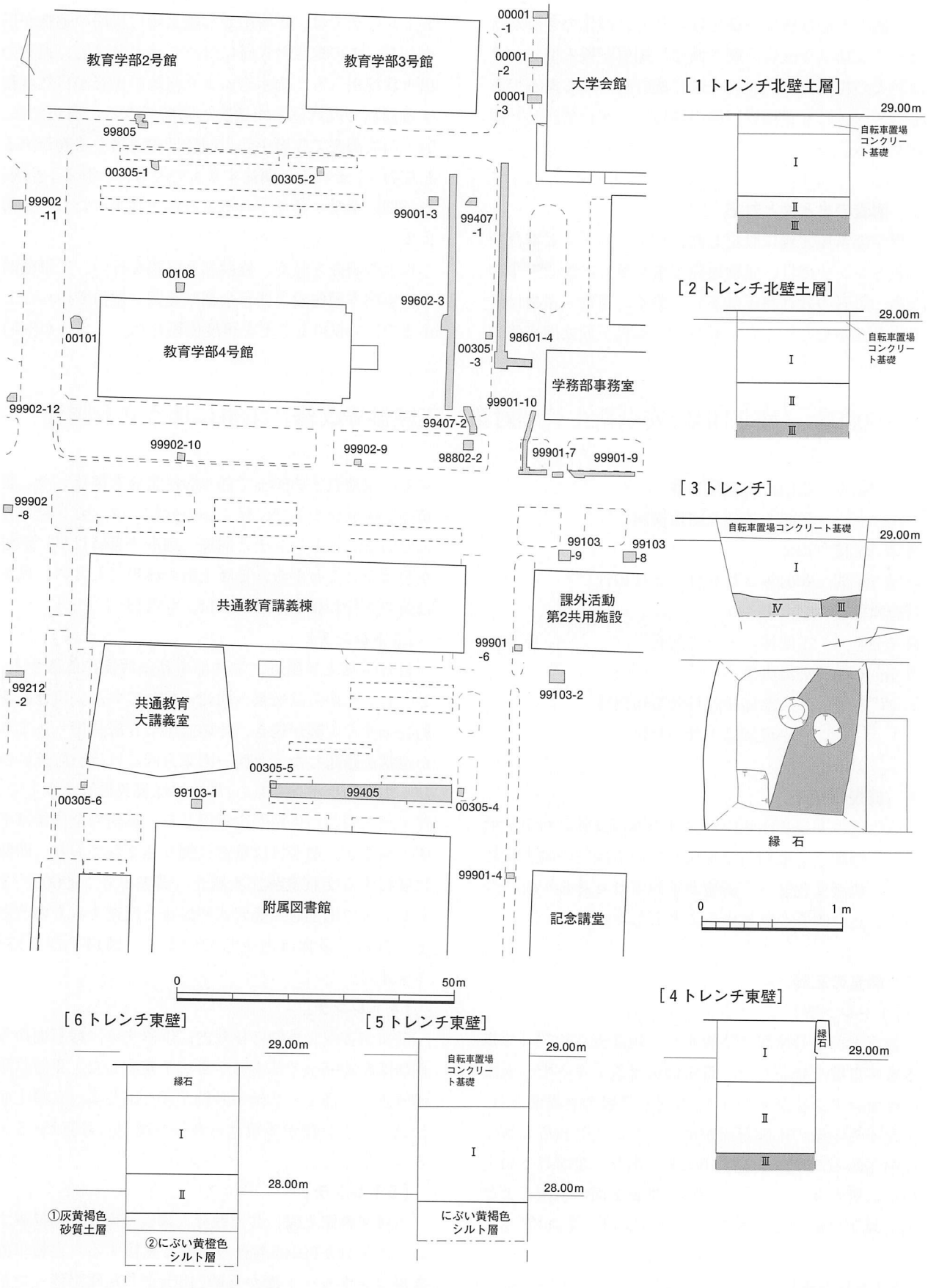


図14　00305調査１～６トレンチ位置図・土層断面図（縮尺 1/1,000・1/40）

1：1～3トレンチ遠景（西から）

2：1トレンチ北壁土層断面

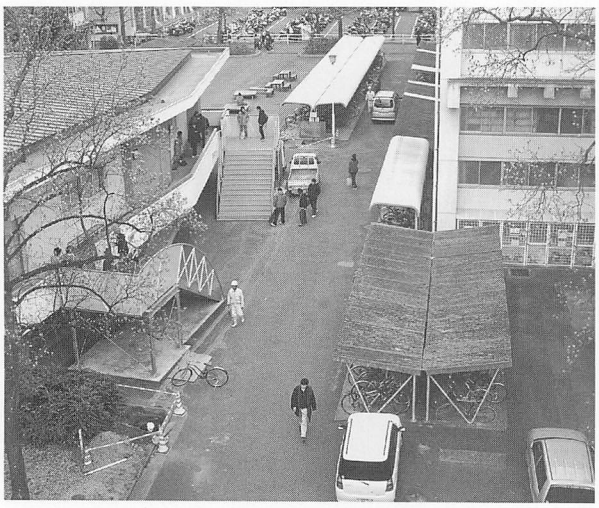
3：2トレンチ北壁土層断面

4：3トレンチ遺構検出状況

5：4トレンチ遠景（北西から）

6：4トレンチ南壁土層断面

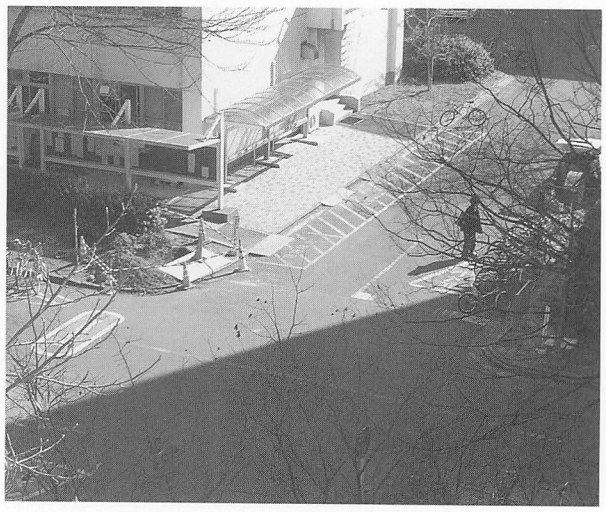
写真13　00305調査1～4トレンチ



1：5・6トレンチ遠景（西から）

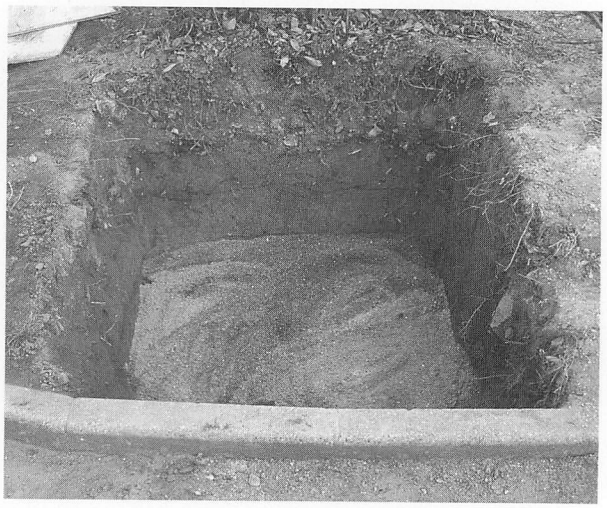
2：5トレンチ東壁土層断面

3：6トレンチ東壁土層断面



4：7トレンチ遠景（北西から）

5：7トレンチ東壁土層断面



6：7トレンチ遺構保護処置の状況

写真14　00305調査5～7トレンチ

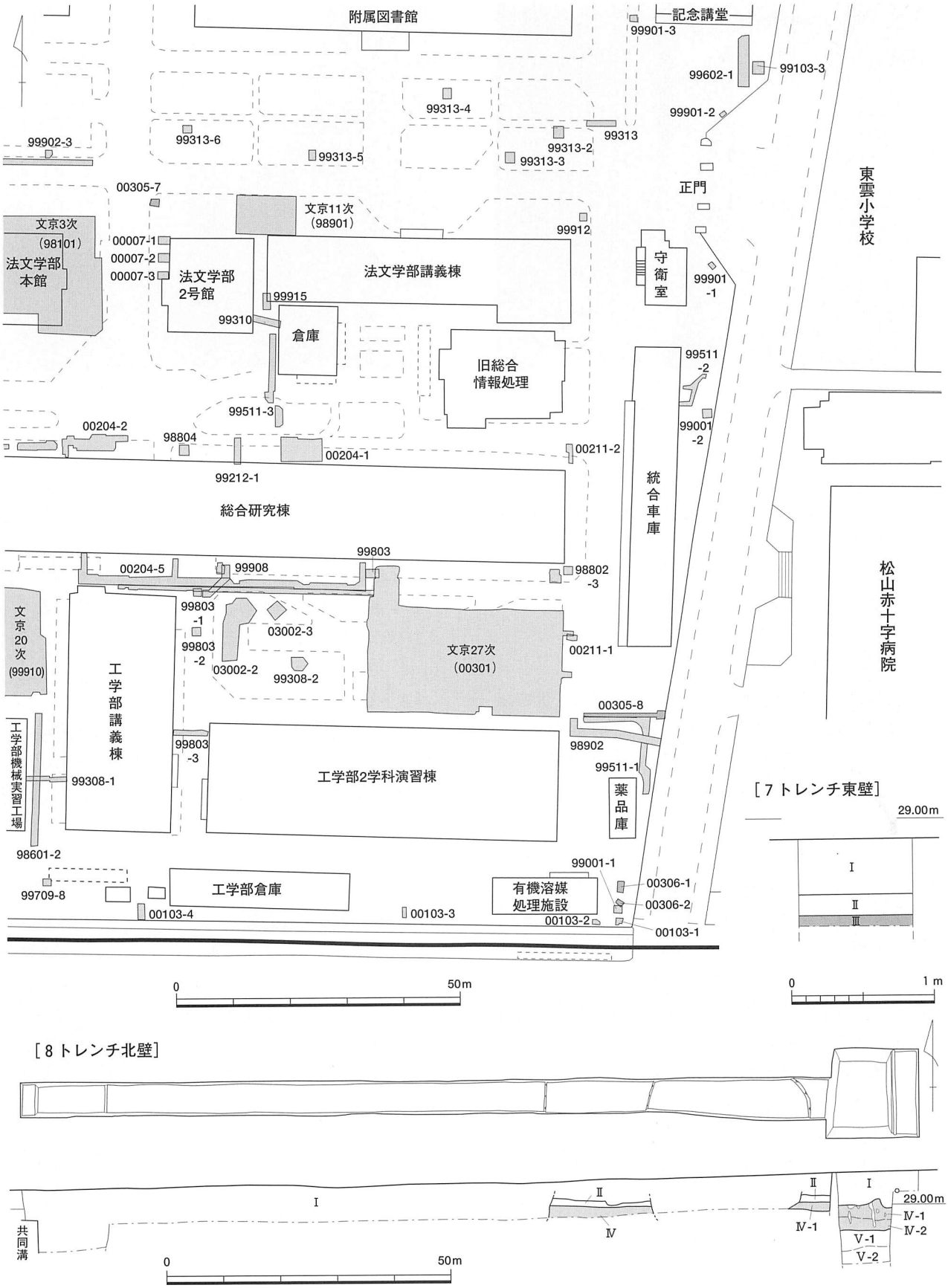
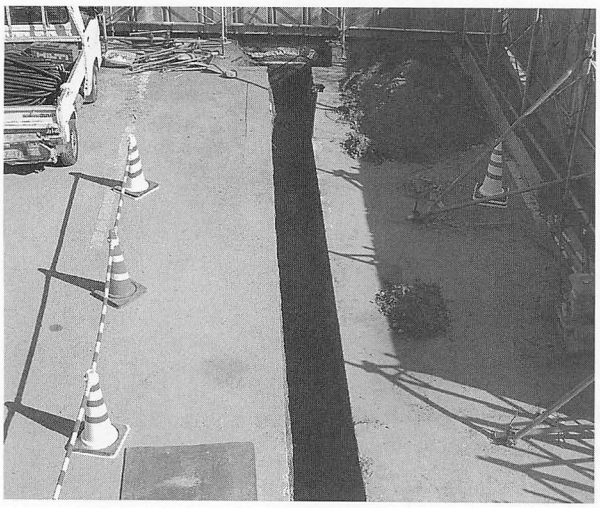


図15　00305調査７・８トレンチ位置図・土層断面図（縮尺 1/1,000・1/40）



1：8トレンチ全景（西から）

2：8トレンチ東端部北壁土層断面

写真15　00305調査8トレンチ

ず、にぶい黄褐色シルト層を確認した。基本層序のⅣ層に類似するが、しまりがない土質である。上部は鉄分の沈着により明黄褐色を呈し、径1㎜の白色粒が多く、径3㎝の円礫も少量混じる（図14、写真14-1・2）。

［6トレンチ］

共通教育大講義室南西部に位置する。植栽を囲む縁石上面から約105㎝まで基本層序Ⅰ・Ⅱ層が続く。Ⅱ層直下では、流水堆積と考えられる①層および②層が現れた。①層は灰黄褐色砂質土で径1㎜の砂粒からなる。まれに径2㎜前後の砂礫が混じり、マンガン粒が少量見られる。②層はにぶい黄橙色シルトで、鉄分の沈着によって部分的に明黄褐色を呈する。砂礫はまったく混じらない。5トレンチで確認されたにぶい黄褐色シルト層と同質の堆積層である。上部の灰黄褐色砂質土と5・6トレンチで確認されたにぶい黄橙色ないしにぶい黄褐色シルト層の流水堆積層は、文京15次調査（調査番号：99602）2トレンチ北端で確認されている自然流路と一連のものである可能性が高い（図14、写真14-1・3）。

［7トレンチ］

法文学部2号館北西部の植栽内に位置する。現地表下から約55㎝（道路面から約50㎝）で基本層序Ⅲ層を確認した。Ⅲ層は暗褐色シルトで、きめが細かい。砂粒および砂礫は混じらない。Ⅲ層最上面から弥生土器片が1点出土した。Ⅲ層とはしているが、土質から考えれば、遺構の埋土である可能性が高い（図16、写真14-4～6）。

［8トレンチ］

団地南東側、統合車庫南側、総合研究棟実験棟東に設けた調査区である。Ⅰ層とⅣ層の層界部分から3点、Ⅳ層最上部から1点の縄文土器の胴部破片が出土したが、いずれも細片で、器表面の摩滅が著しい（図15、写真15-1・2）。

3　調査のまとめと対応

今回の調査では、工事で掘削される深度以下の調査は実施していない。3・7トレンチでは、遺構を確認したが、工事による影響がないことから、遺構の保全のため遺構上面に真砂土を入れて保護処置を講じた（写真12）。以外の地点でも慎重工事を依頼して調査を終了した。（三吉）

00306　(城北団地)安全衛生管理対策（廃液保管庫他改修）電気設備工事に伴う立会調査

調査地点　松山市文京町３番
　　愛媛大学城北団地構内
調査面積　1.4㎡
調査期間　2004年３月４日～３月５日
調査の種別　立会調査
調査担当　田崎博之・三吉秀充
調査補助　宮崎直栄
依頼文書　施設部施設課長発事務連絡
　　（平成16年２月20日付）

1　調査にいたる経緯

廃液保管庫改修に伴う電気設備工事で廃液保管庫の東側の２ヶ所に接地極（アース）を設置することとなった。工事予定地周辺では、99001調査１トレンチ、00103調査１・２トレンチがあり、その調査成果から、埋蔵文化財への影響が予想されるため立会調査を行った。

2　調査の記録

調査地点は城北団地南東角に位置する。接地極が設置される２ヶ所中で、南側地点を１トレンチ、北側を２トレンチとして調査を行った（図15、写真16-１・２）。

［１トレンチ］

近現代の瓦礫を伴ったⅠ層及び近世の水田層であるⅡ層は、現地表下約80cmまで続く。Ⅰ・Ⅱ層を重機で掘削した後、Ⅲ層以下を人力で掘り下げ精査した。

Ⅰ層最下部に堆積するⅠ-４層は、径１～２㎜の砂礫が多く混じる灰黄褐色砂質土で、下部には鉄分が集積する。Ⅱ層は砂礫が灰黄褐色砂質土で、砂礫が多く混じる部分が点々と見られ、にぶい黄褐色シルトの小塊が混じる。

Ⅲ層はⅢ-１・２層に分層できる。Ⅲ-１層は、褐灰色シルトで、径１㎜前後の砂礫が多く混じり、微細砂のラミナが発達する。Ⅲ-２層は褐灰色砂質土で、きめは細かい。不定形の浅黄色砂質土塊が混じり、砂礫を多く含む。Ⅲ-３層下には、基本層序Ⅳ層が見られる（図16、写真17-３）。

遺物は、Ⅱ層から弥生時代中期後葉の甕胴部片（図17-１）と、Ⅲ-２層とⅣ層の層界部から弥生時代中期後葉の甕底部（図17-２）と胴部片が数点出土しただけである。１は、外面に刷毛目調整の後に口縁部周辺を横ナデ調整。内面には不明瞭ながら指頭痕が残る。外面には煤が付着。２の外面は幅４～５㎜のヘラ状工具によるナデ痕跡が残る。内面は比較的丁寧なナデ調整が施されている。

［２トレンチ］

重機で表土層のⅠ層の掘り下げ途中、現地表下80cmの地点で樹木根が広範囲に広がりはじめ、重機による掘削が困難なことから、以下は人力で掘り下げながら調査を進めた（図16、写真17-４）。

Ⅰ層の最下部で、灰白色砂層があらわれ、Ⅰ-５層とした。粗砂と細砂が縞状に互層で堆積し、最下面には微細砂のラミナが発達している。Ⅰ-５層はトレンチ南側へ続くが、１トレンチに見られない。Ⅰ-４層はⅡ層上面から掘り込まれた溝の可能性が高い。

Ⅲ層は４層からなる。Ⅲ-１層は、にぶい黄灰色と黒灰色の細砂が混じり、部分的に黄灰色細砂のラミナがみられる。Ⅲ-２層は、細砂が多く混じる黒灰色砂質土で、親指先大の不定形の浅黄色シルト塊が点々とみられる。Ⅲ-３層は、黒灰色砂質土で、きめは細かい。微細砂のレンズ状ブロックが多く混じる。円礫を

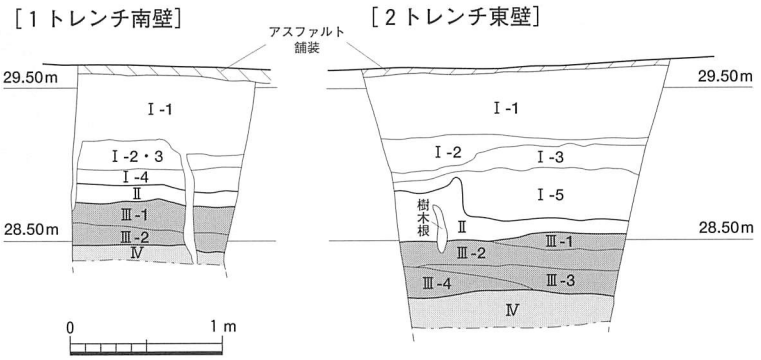
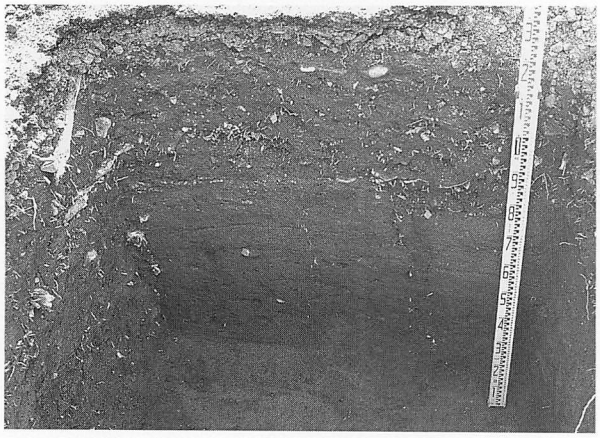


図16　00306調査１・２トレンチ土層断面図（縮尺 1/50）

1：8トレンチ全景（西から）

2：8トレンチ東端部北壁土層断面



3：1トレンチ南壁土層断面

4：2トレンチ東壁土層断面

写真16　00306調査1・2トレンチ

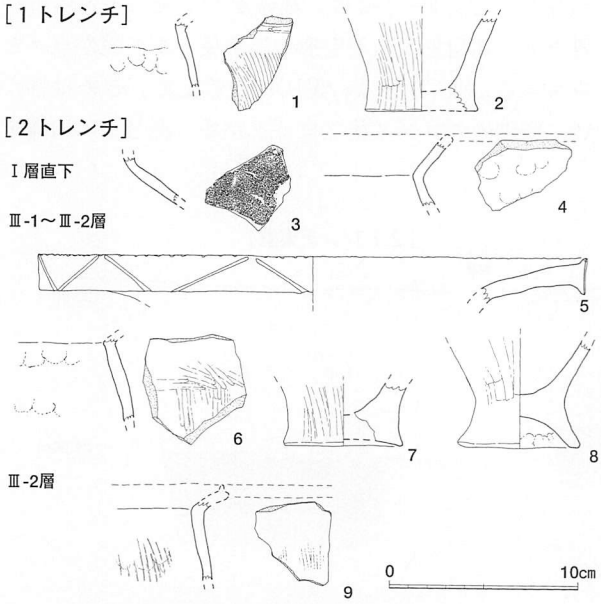


図17　00306調査出土遺物実測図（縮尺 1/4）

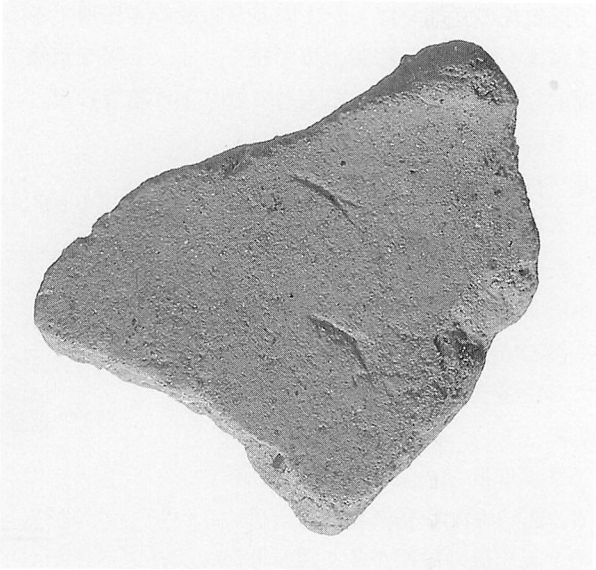


写真17　00306調査2トレンチ出土絵画土器

1：00307調査区遠景（東から）

2：00307調査トレンチ北端部の状況

写真18　00307調査状況

含む。Ⅲ-4層は径2～4㎝の円礫と黒灰色粗砂が混じる砂礫層。1トレンチには見られない。

Ⅳ層は、径2～4㎝の円礫とにぶい黄褐色粗砂層が混じる砂礫層で、礫がとくに目立つ。

2トレンチでは、Ⅰ-4層、Ⅲ-1～Ⅲ-2層上部、Ⅲ-4層とⅣ層の層界部から弥生時代の遺物が出土している。Ⅰ-4層直下の遺物には、壺の肩部に先端が尖ったヘラ状工具で松葉状の文様を描いた絵画土器(図17-3、写真17)。弥生時代後期中葉～後葉の甕の口縁部片（図17-4）がある。Ⅲ-1～Ⅲ-2層上部からは、比較的まとまって弥生土器が出土した（図17-5～8）。いずれも器表面の残存状態はよく摩滅も受けていない。5は口縁部が大きくラッパ状にひらく広口壺である。口縁端面を上下に拡張し、上端部に刻目を施し、端面に斜線文を山形に描く。6は甕の胴部上半の破片で、外面はミガキ調整、内面は指オサエの後にナデ仕上げ。7は甕の底部片。外面には幅3㎜前後のミガキ痕が残る。内面はナデ調整。器壁の芯部は生焼け状態である。8も甕の底部片で、裾部が大きく張り出す上げ底である。外面には、横ナデ調整痕の下に、幅7㎜前後のヘラ状工具によるナデ痕跡がみられる。以上に加えて、甕や壺の胴部片が数点ある。いずれも弥生時代中期中葉～後葉に比定できる。また、Ⅲ-4層とⅣ層の層界部から、幅6㎝、長さ4㎝、最大厚1.4㎝のサヌカイト残核が1点出土している。

3　調査のまとめ

今回調査の地点のⅢ層は、文京遺跡の他の調査地点でみられるⅢ層と比べて砂礫が多く混じることが特徴的である。周辺では、00305調査8トレンチ付近から00103調査地点にかけて、谷状の落ち込みが想定されている。今回調査のⅢ層には微細砂のラミナが含まれていることから、Ⅳ層上面に形成されていた落ち込みに向かって流水作用で二次的に堆積したものと考えられる。出土遺物も、そうしたⅢ層の二次堆積の過程で流入したものである。　（田崎・三吉）

00307　（城北団地）安全衛生管理対策（実験盤等改修）工事に伴う立会調査

調査地点　松山市文京町3番
　　愛媛大学城北団地構内
調査面積　2.6㎡
調査期間　2004年3月4日
調査の種別　立会調査
調査担当　田崎博之・三吉秀充
依頼文書　施設部施設課長発事務連絡
（平成16年3月1日付）

1　調査にいたる経緯

10月16日に、施設部から城北団地の14ヶ所に外灯を設置する計画が提示された。既往の調査成果に基づき、掘削深度を浅くすることで、埋蔵文化財への影響がないように協議を進めた。しかし、城北団地北東部の教

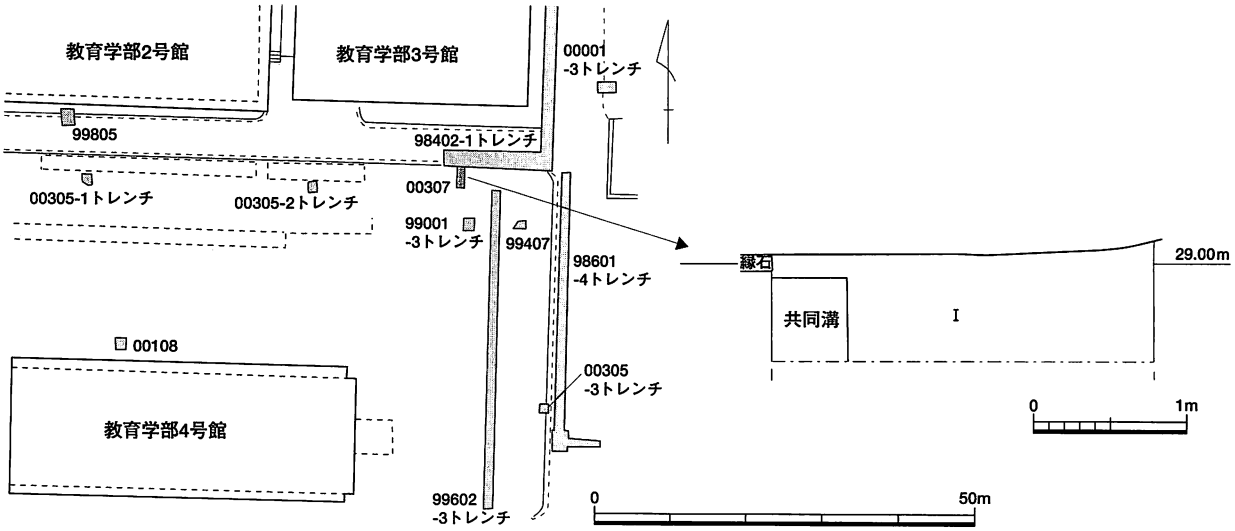


図18　00307調査位置図・東壁土層断面図（縮尺 1/1,000・1/50）

育学部２・３号館の南側道路に沿う外灯設置に伴う接地極の埋設と電線管の共同溝取り込み工事については、周辺で既往の詳細なデータがなく、埋蔵文化財への影響も予想されたため、立会調査を実施した。

2　調査の記録

外灯設置に伴い接地極が埋設され共同溝が取り込まれる地点にあたる教育学部３号館南側で調査を行い、共同溝の余掘り幅を確認することとした（図18、写真18)。道路南端の縁石から南へ約2.6m、幅１mにわたって掘削を行った。縁石上端から掘削深度約15cmで共同溝を検出し、縁石上端から約70cmまで掘削を行ったが、瓦礫を伴ったⅠ層が続き、Ⅱ層以下の層は確認できなかった。また、共同溝設置に伴う余掘り範囲は縁石から南へ1.15mの範囲まで及ぶことが明らかになった。

3　調査後の対応

調査結果を施設部へ報告して、協議を行った。その結果、工事に伴う掘削部分を共同溝の余掘り部分に収めることとなり、慎重工事を依頼して調査を終了した。

（三吉）

表６　愛媛大学埋蔵文化財調査一覧（2005年１月現在）

調査番号	団地名	遺跡名	調査次数	調査種別	調査原因となった工事名	調査期間	調査面積（㎡）	報告・備考
97501	城北	文京	１次	本格	工学部海洋工学科校舎新営工事	19750801 ～ 19750824	750	松山市教育委員会調査。文献①
98001	城北	文京	２次	本格	工学部資源化学科新営工事	19800708 ～ 19800930	600	松山市教育委員会調査。文献②
98101	城北	文京	３次	本格	法文学部校舎新営工事	19820110 ～ 19820325	800	松山市教育委員会調査。文献②
98201	城北	文京	４次	本格	松山市東中学校校舎建設工事	19820803 ～ 19820826	750	松山市教育委員会調査。文献③
98301	城北	文京		立会	雨水管･汚水管･ガス管埋設工事		1,374	
98302	城北	文京		立会	教育学部校舎建設工事			
98401	城北	文京	５次	本格	工学部危険物貯蔵庫新営工事	19841026 ～ 19841028	18	松山市教育委員会調査。文献②
98601	城北	文京	６次	本格	城北地区基幹整備工事		99	正式報告書未刊
98602	城北	文京	７次	本格	法文学部校舎新営工事	19860800 ～ 19860900	142	正式報告書未刊
98603	城北	文京	８次	本格	愛媛大学城北地区基幹整備事業	19861125 ～ 19870218	854	愛媛大学人類考古学教室調査。調査室報Ⅱ
98604	樽味	樽味		事前	連合農学研究科校舎新営工事	19870109	5	調査室報Ⅰ
98605	鷹子	鷹子		事前	国際交流会館新営工事	19870116	47	調査室報Ⅴ
98701	鷹子	鷹子	１次	全面	国際交流会館新営工事	19870720 ～ 19870920	962	調査室報Ⅰ
98702	樽味	樽味		試掘	連合農学研究科校舎新営工事	19870820 ～ 19870821	18	調査室報Ⅴ
98703	樽味	樽味		試掘	附属農業高校課外活動施設新営工事	19870820	6	調査室報Ⅴ
98704	樽味	樽味	１次	全面	連合農学研究科校舎新営工事	19871028 ～ 19871217	684	調査室報Ⅴ
98705	城北	文京		試掘	城北地区プール廻り浄化装置増設工事	19871113	2	調査室報Ⅴ
98706	城北	文京	９次	全面	城北地区プール浄化装置増設工事	19880111 ～ 19880129	62	調査室報Ⅴ
98801	城北	文京	10次	全面	工学部情報工学科校舎新営工事	19880919 ～ 19890303	1,075	調査室報Ⅲ
98802	城北	文京		試掘	城北地区基準点等設置工事	19881013	5	調査室報Ⅴ
98803	城北	文京		試掘	工学部講義棟高圧ケーブル埋設工事(その１)	19881208	2	調査室報Ⅴ
98804	城北	文京		試掘	工学部講義棟高圧ケーブル埋設工事(その２)	19881212	1	調査室報Ⅴ
98805	城北	文京		立会	工学部情報工学科校舎排水施設取設工事	19890207	6	調査室報Ⅴ
98806	城北	文京		立会	工学部情報工学科校舎給水施設取設工事	19890209 ～ 19890210	3	調査室報Ⅴ
98901	城北	文京	11次	全面	法文学部講義棟身障者用昇高機取設工事	19890801 ～ 19890829	85	調査室報Ⅱ
98902	城北	文京		立会	電波障害用の外線工事	19900303	2	調査室報Ⅴ
99001	城北	文京		試掘	城北団地囲障工事及び教育学部自転車置場新設工事	19900808	3	調査室報Ⅴ
99101	樽味	樽味	２次	全面	農学部研究実験棟新営工事	19920107 ～ 19920228	506	調査室報Ⅳ
99102	津田山			試掘	教育学部附属養護学校日常生活訓練施設建設工事	19910608	13	調査室報Ⅴ
99103	城北	文京		試掘	城北団地囲障（Ⅱ期）改修及び外灯改修工事	19910821	36	調査室報Ⅴ
99201	樽味	樽味		立会	農学部屋外ガス本管改修工事	19920526	6	調査室報Ⅴ
99202	城北	文京		試掘	城北地区東側囲障改修工事	19920730	3	調査室報Ⅴ
99203	樽味	樽味		試掘	附属図書館農学部分館新営工事に伴う電気工事	19920826	1	調査室報Ⅴ
99204	重信			試掘	医学部附属病院病歴室新営工事（その１）	19920826	3	調査室報Ⅴ
99205	山越			確認	1992年度構内遺跡確認調査（その１）	19920828	57	調査室報Ⅴ
99206	樽味	樽味		立会	農学部拓翠寮他自転車置場新設工事(その１)	19920921	3	調査室報Ⅴ
99207	樽味	樽味		立会	農学部拓翠寮他自転車置場新設工事(その２)	19920921	2	調査室報Ⅴ
99208	城北	文京		立会	城北団地外灯設備改修工事	19921026	2	調査室報Ⅴ
99209	持田	持田		立会	教育学部附属小学校給水設備工事	19921026	11	調査室報Ⅴ
99210	重信			試掘	医学部附属病院駐車場取設工事	19921027	40	調査室報Ⅴ
99211	重信			確認	1992年度構内遺跡確認調査（その２）	19930120 ～ 19930121	54.6	調査室報Ⅴ

調査番号	団地名	遺跡名	調査次数	調査種別	調査原因となった工事名	調査期間	調査面積（㎡）	報告・備考
99212	城北	文京		立会	城北団地情報通信設備工事	19930308～19930309	11.8	調査室報Ⅴ
99213	重信			試掘	医学部附属病院病歴室新営工事（その２）	19930322	6.8	調査室報Ⅴ
99214	樽味	樽味		立会	樽味団地自転車置場取設その他工事	19930323	3.3	調査室報Ⅴ
99215	城北	文京		立会	城北団地交通規制遮断機取設工事	19930324	2	調査室報Ⅴ
99301	重信			試掘	医学部看護学科校舎新営工事	19930524	20	調査室報Ⅴ
99302	樽味	樽味		立会	附属図書館農学部分館新営（樹木移植）工事	19930624～19930625	14	調査室報Ⅴ
99303	樽味	樽味		試掘	農学部自転車置場取設工事	19930627	80.8	調査室報Ⅴ
99304	樽味	樽味	３次	全面	附属図書館農学部分館新営工事	19930823～19931006	258.5	調査室報Ⅲ
99305	城北	文京		立会	城北団地大学会館廻り道路整備（樹木移植）工事	19931109	2	調査室報Ⅴ
99306	樽味	樽味		試掘	附属図書館農学部分館新営（外灯設備管路）工事	19931124	3	調査室報Ⅴ
99307	樽味	樽味		立会	城北団地他情報通信電気設備工事（その１）	19931124	7	調査室報Ⅴ
99308	城北	文京		立会	城北団地他情報通信電気設備工事（その２）	19931125	7.9	調査室報Ⅴ
99309	持田	持田		確認	1993年度構内遺跡確認調査（その１）	19931224～19931225	39	調査室報Ⅴ
99310	城北	文京		立会	城北団地情報機器更新電源容量増設工事	19940118	3.7	調査室報Ⅴ
99311	樽味	樽味		立会	農学部附属図書館新営（配水管埋設）工事	19940208～19940215	19.8	調査室報Ⅴ
99312	樽味	樽味		立会	農学部自転車置場排水管路工事	19940208	29.7	調査室報Ⅴ
99313	城北	文京		試掘	城北団地基幹整備（屋外環境）工事	19940209～19940216	14.8	調査室報Ⅴ
99314	城北	文京		試掘	工学部研究実験棟建設工事	19940329	37.9	調査室報Ⅴ
99401	北吉井	桑原西稲葉	３次	立会	東長戸他環境整備（駐車場整備、配管設置）工事（その１）	19940510～19940518	54.5	調査室報Ⅸ
99402	山越	東長戸		立会	東長戸他環境整備（駐車場整備、配管設置）工事（その２）	19940517	9	調査室報Ⅴ
99403	樽味	樽味		試掘	樽味団地環境整備（附属農業高等学校他自転車置場取設）工事	19940524	7.8	調査室報Ⅴ
99404	城北	文京		立会	城北団地他環境整備（単車置場整備）工事	19940607	1.4	調査室報Ⅴ
99405	城北	文京		試掘	城北団地他環境整備（自転車置場設置）工事	19940608	81.3	調査室報Ⅴ
99406	城北	文京		立会	城北団地他環境整備（自転車置場・配水管設置）工事	19940610	5.3	調査室報Ⅴ
99407	城北	文京		試掘	城北団地他環境整備（排水桝及び管路取設）工事	19940801	5.9	調査室報Ⅴ
99408	城北	文京		試掘	城北団地他環境整備（電気配管路取設）工事	19940801	3.2	調査室報Ⅴ
99409	城北	文京		立会	工学部岩盤切削試験機設置工事	19940927	1.1	調査室報Ⅴ
99410	城北	文京	12次	全面	工学部校舎新営（Ⅰ期）工事	19941110～19950726	1,183	調査室報Ⅴ
99411	津田山			試掘	教育学部附属養護学校野外施設（東屋）設置工事	19950127	33	調査室報Ⅴ
99501	城北	文京		立会	教育学部運動場内鉄棒移設工事	19950411～19950412	48	調査室報Ⅶ
99502	城北	文京		試掘	教養部テニスコート（事務局北側）改修工事	19950801	9	調査室報Ⅶ
99503	城北	文京		立会	工学部南側囲障工事	19950801	3	調査室報Ⅶ
99504	城北	文京		試掘	理学部構内井戸工事	19950802	4	調査室報Ⅶ
99505	山越	山越		試掘	山越団地防球ネット取設工事	19950802	7	調査室報Ⅶ
99506	城北	文京	13次	全面	地域共同研究センター新営工事	19951017～19960412	890	調査室報Ⅻ
99507	樽味	樽味		立会	公共下水道桝取設工事	19951114	2	調査室報Ⅶ
99508	北吉井	桑原西稲葉		立会	北吉井宿舎公共下水道設置工事	19951115	1.6	調査室報Ⅶ
99509	城北	文京		立会	城北団地（北西）通用門改修工事	19951116	3	調査室報Ⅶ
99510	城北	文京		立会	埋蔵文化財調査室改修工事	19960131	1	調査室報Ⅶ
99511	城北	文京		立会	城北団地基幹整備（電線管等）工事	19960213～19960220	34	調査室報Ⅶ
99512	城北	文京		立会	城北団地事務局ガス管改修工事	19960311	2	調査室報Ⅶ
99601	城北	文京	14次	全面	工学部校舎新営（Ⅱ期）工事	19960520～19970331	1,349	調査室報Ⅶ

調査番号	団地名	遺跡名	調査次数	調査種別	調査原因となった工事名	調査期間	調査面積（㎡）	報告・備考
99602	城北	文京	15次	確認	1996年度構内遺跡確認調査	19961113～19961209	252.9	調査室報Ⅶ
99603	樽味	樽味		試掘	附属農業高等学校校舎新営工事	19961128～19961212	21.7	調査室報Ⅶ
99604	樽味	樽味		試掘	附属農業高等学校温室新営工事	19961129	5.1	調査室報Ⅶ
99605	樽味	樽味		試掘	農学部構内光ケーブル敷設工事	19961129	1	調査室報Ⅶ
99606	持田	持田		立会	教育学部附属中学校プール改修その他工事	19970204	3.6	調査室報Ⅶ
99701	城北	文京	16次A区	全面	工学部校舎新営第Ⅲ期工事（その１）	19970428～19971222	1,384	調査室報Ⅶ
99702	城北	文京	17次B区	全面	工学部校舎新営第Ⅲ期工事（その２）	19970409～19970729	627	調査室報Ⅶ
99703	樽味	樽味		全面	ATM－LAN整備工事	19970414～19970417	131	調査室報Ⅶ
99704	城北	文京		立会	事務局案内板取設工事	19970804	2.7	調査室報Ⅶ
99705	持田	持田		立会	持田団地内構内光ケーブル布設工事	19970804	4.5	調査室報Ⅶ
99706	持田	持田		試掘	持田地区北側囲障改修工事	19970805～19970806	6.1	調査室報Ⅶ
99707	樽味	樽味		試掘	樽味団地（附農高）校舎新営工事	19970806～19970807	12.2	調査室報Ⅶ
99708	樽味	樽味		立会	樽味団地排水工事	19970807	2.4	調査室報Ⅶ
99709	城北	文京		立会	工学部校舎新営電気設備工事（その２）	19970818～19970918	12.2	調査室報Ⅶ
99710	北吉井	桑原西稲葉	4次	全面	北吉井宿舎屋外排水管改修工事	19971008～19971201	100.4	調査室報Ⅶ
99711	北吉井	桑原西稲葉	5次	立会	北吉井宿舎屋外ガス管改修工事	19971112～19971118	32	調査室報Ⅶ
99712	樽味	樽味	4次	全面	農学部附属農業高等学校校舎新営工事	19971125～19980204	1,168	調査室報Ⅶ
99713	樽味	樽味		試掘	附属農業高校運動場東側防護ネット及び第３棟東側フェンス増設工事	19971218	6.1	調査室報Ⅶ
99714	樽味	樽味		立会	附属農高校校舎埋蔵文化財調査に伴う支障建物整備工事（農機舎及び車庫）	19980204～19980206	186.5	調査室報Ⅶ
99715	城北	文京	17次	確認	1997年度構内遺跡確認調査	19980302～19980310	154	調査室報Ⅶ
99716	樽味	樽味		立会	附属農高運動場東側防護ネット及び第３棟東側フェンス増設工事	19970311～19970312	21.2	調査室報Ⅶ
99717	城北	文京		緊急	工学部校舎新営に伴う外表施設整備工事	19980217		調査室報Ⅶ
99801	城北	文京		立会	「大正天皇お手植えの松」の移植工事	19981108	1	調査室報Ⅶ
99802	城北	文京	18次	全面	総合情報処理センター新営工事	19981215～19990802	1,192	調査室報Ⅶ
99803	城北	文京		立会	工学部本館等事務室改修機械設備工事	19981214	0.7	調査室報Ⅶ
99804	樽味	樽味		試掘	遺伝子実験施設新営その他工事	19990128～19990129	21.8	調査室報Ⅶ
99805	城北	文京		立会	教育学部２号館南消火用水漏れ改修工事	19990311	3	調査室報Ⅶ
99806	城北	文京		立会	理学部本館南消火栓管路改修工事	19990316	1	調査室報Ⅶ
99807	樽味	樽味	5次	全面	遺伝子実験施設新営その他工事	19990316～19990721	979	調査室報Ⅶ
99808	重信			試掘	医学部附属病院病棟建設工事	19990331～19990401	2.5	調査室報Ⅶ
99809	城北	文京		立会	学生会館ガス管改修工事	19990603	1	調査室報Ⅶ
99901	城北	文京	19A次	全面	工学等総合研究実験棟新営電気設備工事（１期）	19990907～19990913	31	調査室報Ⅹ
99902	城北	文京	19B次	全面	工学等総合研究実験棟新営電気設備工事（２期）	19991201～19991217	43	調査室報Ⅹ
99903	樽味	樽味		立会	農学部附属農業高等学校校舎新営電気・機械設備工事（１期）	19991006	1.4	調査室報Ⅹ
99904	樽味	樽味		立会	農学部附属農業高等学校校舎新営電気・機械設備工事（２期）	19991025～19991029	25	調査室報Ⅹ
99905	樽味	樽味		立会	農学部附属農業高等学校校舎新営電気・機械設備工事（３期）	19991124～19991128	31	調査室報Ⅹ
99906	樽味	樽味		立会	農学部附属農業高等学校校舎新営電気・機械設備工事（４期）	20000128	2.5	調査室報Ⅹ
99907	城北	文京		立会	「大正天皇お手植えの松」移植工事	20000125	20	調査室報Ⅹ

調査番号	団地名	遺跡名	調査次数	調査種別	調査原因となった工事名	調査期間	調査面積（㎡）	報告・備考
99908	城北	文京		立会	理工学等総合実験棟新営電気設備工事（その2）	20000201	8	調査室報X
99909	城北	文京		立会	総合情報処理センター新営電気設備工事	20000208	8	調査室報X
99910	城北	文京	20次	全面	愛媛大学サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー（S.V.B.L.）新営工事	20000214～20000620	588	調査室報X
99911	城北	文京		試掘	大学会館改修工事	20000216	9	調査室報X
99912	城北	文京		立会	城北団地外灯移設工事	20000216	1	調査室報X
99913	樽味	樽味		確認	農学部生態観察実験のための水田設置工事	20000310	1	調査室報X
99914	城北	文京		立会	埋蔵文化財調査室情報通信設備工事	20000313	19	調査室報X
99915	城北	文京		立会	法文学部講義棟空調電源工事	20000313	1	調査室報X
99916	樽味	樽味		立会	農学部附属農業高等学校校舎新営工事	19990507	－	調査室報X
00001	城北	文京		立会	大学会館改修工事	20000829～20000830	9	調査室報X
00002	城北	文京		試掘	教育学部クレイテニスコート改修工事	20000913	2.2	調査室報X
00003	城北	文京	21次	全面	基礎科学総合研究棟新営工事（Ⅰ期）	20010115～20010909	1,644	調査室報X
00004	山越	山越		立会	山越運動場上水管改修工事	20010115	7	調査室報X
00005	城北	文京	22次	確認	2000年度遺跡範囲確認調査	20010123～20010124	33	調査室報X
00006	城北	文京		立会	教育学部クレイテニスコート改修工事	20010123～20010124	1	調査室報X
00007	城北	文京		立会	法文学部掲示板設置工事	20010315	5	調査室報X
00008	御幸			立会	御幸寮外灯設備改修その他工事	20010316	3	調査室報X
00101	城北	文京			同窓会連合会による五葉松移植工事	20010509	3	調査室報XI
00102	樽味	樽味		試掘	農学部寄附建物新営工事	20010607	16	調査室報XI
00103	城北	文京	23次	全面	四国電力による城北団地構内高圧線敷設工事	20010626～20010709	17.3	調査室報XI
00104	城北	文京		立会	工学部屋外給水管布設替工事	20010801	0.6	調査室報XI
00105	城北	文京	24次	全面	（城北）総合研究棟新営（Ⅱ期）工事	20011001～20020326	640	調査室報XI
00106	樽味	樽味	6次	全面	農学部寄付建物新営工事	20011115～20020206	1,205	調査室報XI
00107	城北	文京		立会	事務局構内外灯設備移設工事	20011121～20011127	6	調査室報XI
00108	城北	文京		立会	教育学部4号館便所改修電気設備工事	20020326	1.5	調査室報XI
00201	樽味	樽味	7次	全面	農学部2号館改修工事	20020403～20020523	170	調査室報XI
00202	城北	文京	25次	全面	情報教育棟新営工事	20020601～20021218	1,022	調査室報XI
00203	城北	文京		立会	情報教育棟用地埋蔵文化財調査に伴う土木工事	20020515～20020517	1	調査室報XI
00204	城北	文京	26次	全面	総合研究棟等改修工事	20020719～20020809	144.7	調査室報XI
00205	城北	文京		立会	総合研究棟等改修電気設備工事	20021021	3	調査室報XI
00206	城北	文京		試掘	情報教育棟・放送大学愛媛学習センター新営その他工事（その2）	20021127	0.5	調査室報XI
00207	城北	文京		立会	総合研究棟新営電気設備工事	20021129	1.5	調査室報XI
00208	山越	山越		確認	2002年度構内遺跡確認調査	20021225～20021226	65	調査室報XI
00209	城北	文京		立会	総合研究棟新営電気・機械設備工事	20030123～20030129	22.6	調査室報XI
00210	城北	文京		立会	情報教育棟・放送大学愛媛学習センター新営電気設備工事	20030115	1.3	調査室報XI
00211	城北	文京		立会	総合研究棟等改修電気設備工事	20030303～20030304	1.9	調査室報XI
00301	城北	文京	27次	全面	総合研究実験棟新営工事	20030529～20031024	703	調査室報XIII
00302	城北	文京		立会	総合研究実験棟新営工事に伴う樹木移植工事	20030527	39	調査室報XIII
00303	城北	文京		立会	放送大学愛媛学習センターサイン取設工事	20030905	3.1	調査室報XIII
00304	城北	文京	28次	全面	理学部総合研究棟改修工事	20031201～20031216	45.1	調査室報XIII
00305	城北	文京		立会	安全衛生管理対策（実験盤等改修）工事	20040209～20040210	12	調査室報XIII
00306	城北	文京		立会	安全衛生管理対策（廃液保管庫他改修）電気設備工事	20040304～20040305	1.4	調査室報XIII
00307	城北	文京		立会	安全衛生管理対策（実験盤等改修）工事	20040304	2.6	調査室報XIII

[関連文献]
① 松山市教育委員会・愛媛大学、1951『文京遺跡』(松山市文化財調査報告11)
② (財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター・愛媛大学、1992『文京遺跡－第２・３・５次調査－』(松山市文化財調査報告書28)
③ (財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター、1992『道後城北遺跡群－文京４次調査ほか－』(松山市文化財調査報告書30)

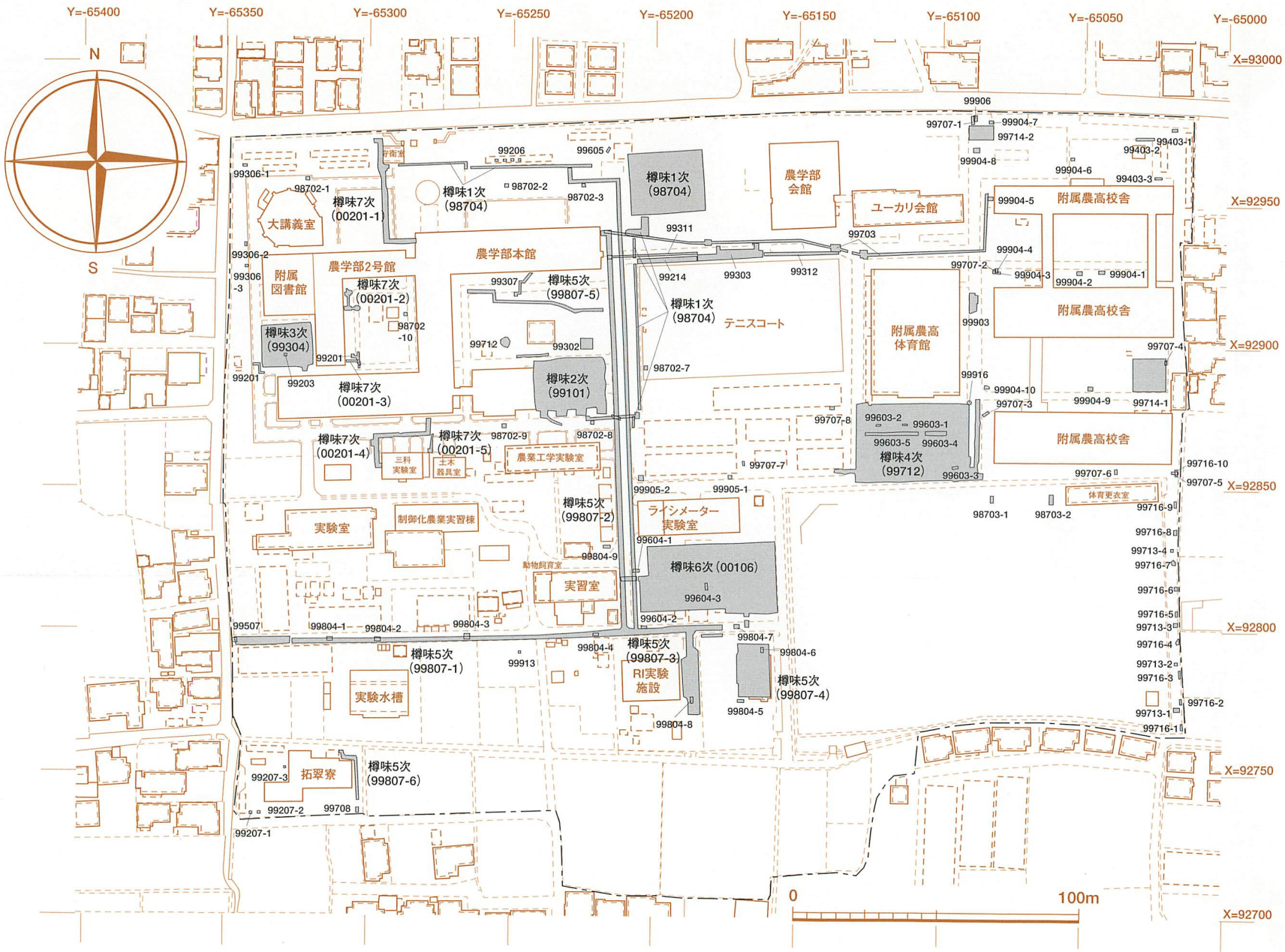


図19　樽味団地調査地点位置図（縮尺 1/2,000）

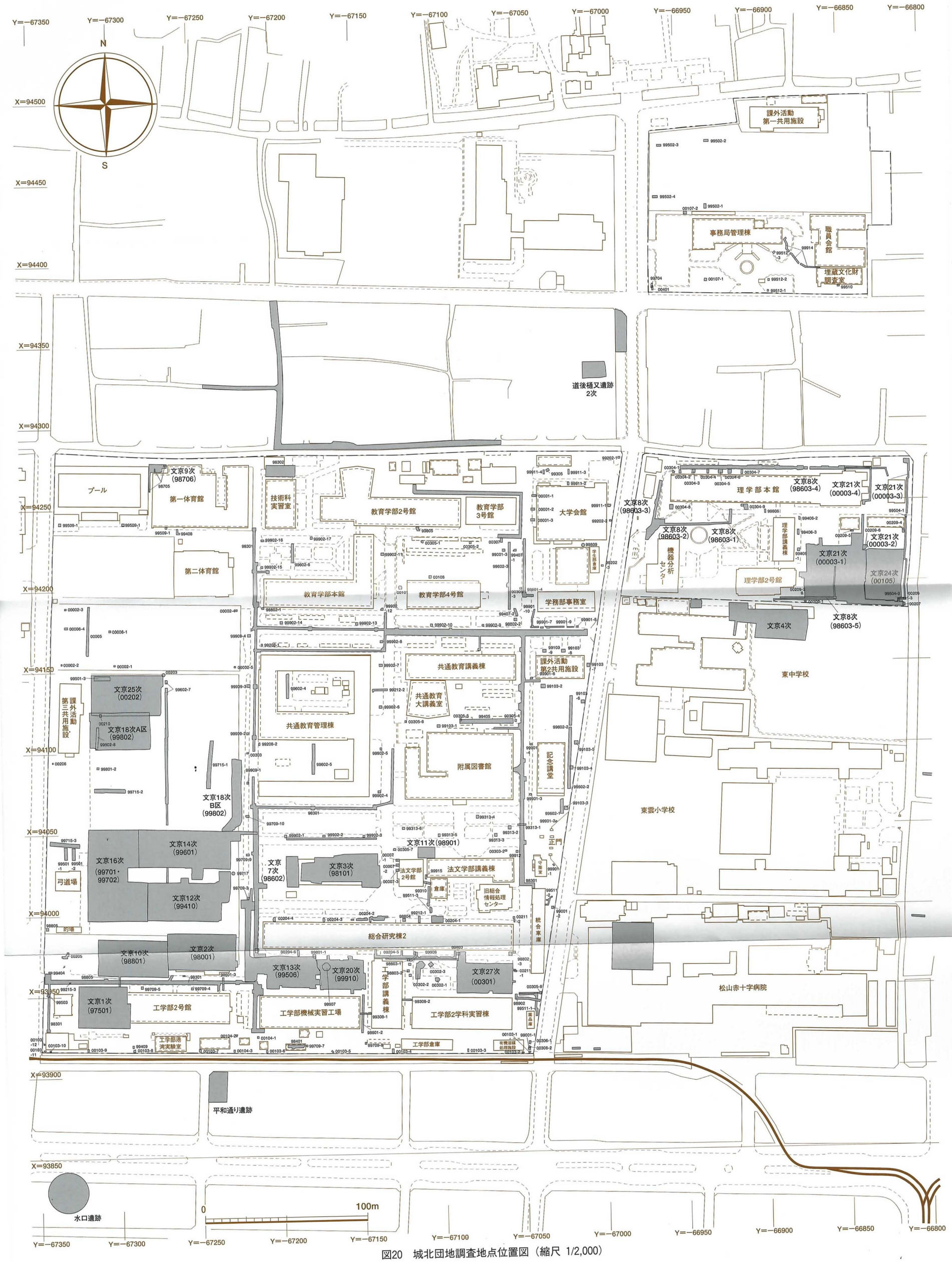


図20　城北団地調査地点位置図（縮尺 1/2,000）

愛媛大学埋蔵文化財調査室年報

— 2003年度 —

愛媛大学埋蔵文化財調査報告　XIII

2005年3月25日

発　行　愛媛大学埋蔵文化財調査室
〒790-8577　松山市道後樋又10－13
TEL 089-927-9127

印　刷　セ　キ　株　式　会　社
〒790-8686　松山市湊町7－7－1
TEL 089-945-0112

R100 本文には古紙配合率100%の再生紙を使用しています。